



# この世界の秘 密の話 2



zenmu

# この世界の秘密の 話

---

2

全無

西暦2011年9月

生老病苦についてお話ししています。厳しいお話をしているところがありますが、結論はずっと先にありますので、心を落ち着けて読んでください。全く無い心とは、普段の自分の生活の中にあります。



それでは、1から続いてお話に入ります。最初のテーマは、1の途中で話した、空気のお話です。この空気、みなさんはどう思いますか。風にただよ漂い、ただ自然になすがまま、流されているだけだと思いませんか。(無)自然には逆らえない。そ

れも、ある、事実の一端  
です。当然、自然には逆  
らえませんが。ただし、波  
長、意識として正確に申  
し上げますのならば、こ  
こ、空気は遥かに普通の  
人間よりも高い、認識力  
を持っています。人間の  
一般常識で言う力とは、  
重いものを持ち上げら

れること、速く走る車の馬力、飛んでいくロケット、または地球の重力など、を思い浮かべられるかもしれませんが、それに匹敵するぐらいの力が、実は、この空気にはあります。なぜそうなのかわかりますか。それは、この世界が、フェアなこ

とに理由があります。どう  
いうことかと申し上げ  
ますと、この世界は円  
にたとえますと、その中  
で光はふえながら動き  
あっており、いつも必ず  
正しい方向にその光の  
動きを変えていると申  
し上げました。1でもお  
話ししました。100年

くらいは見通せる感覚  
があると、それは間違い  
ではありません。実は、  
この無における光の動  
きというのは、つまり、  
光の強さ、言い換えれば、  
無（この世界）に与える  
影響の強さ、つまり、波  
長の強さは、全てその無  
における光の密度に応

じています。言い換えれば、そのものが持つ波長の形態、つまり、そのものを持つ認識状態によって、この世界に与えられる力、与えられている役割としての力が違うのです。本当は、無（永遠）という意味ではみんな一緒ですが、物理はそ

の形態で役割をみなそれぞれに与えますので、その各々の形態の時点でという意味では、みなそれぞれ波長の意識の持つ力が違います。どういふことかと申し上げますと、まず、今あるこの空間宇宙を小さな点でイメージしてみてく

ださい。→・これを無と  
みて、この中で光がふえ  
ながら、正しい方向に動  
き合っていると考えて  
ください。実は、この中  
で一番力を持つものは  
何だと思えますか？正  
解は無です。そして、無  
に近い密度の物ほど、こ  
の世界に与える影響力



が強いわけです。たとえば、ミサイルを飛ばすとしても。普段の私たちから見れば、それは、確かに大地が吹っ飛んで物凄い威力なわけです。しかし、実際には、この空間一見何も無いようなところには、世界があると先程申し上げました。

世界があるということ  
は、宇宙があるというこ  
となんです。（宇宙でな  
い場合もあります。←そ  
の説明はまた後ほどさ  
せていただきます）それ  
で、空気は何かと申し上  
げますと、実は、その宇  
宙に近い密度、まず、状  
態によっては、宇宙その

ものと言っても差し支えありません。これは、意思を持っています。どういふことかわかりますか。この世界で本当の力とは、腕相撲が強いことでも、車が速いことでも、ミサイルが飛んでいくことでも、無いんです。実は、そういった力は無

の世界では、弱い力の部類に入ります。何が一番強いかは申し上げました。そう、無に近い力ほど、無の密度に近いところほど、その無（全体）に与える影響力が強い。なぜなら、この世界はやはり「無い」からです。簡単にわかりやすく申

し上げますと、ミサイルが飛んでいきます。それは、大地に落ちる。それは、そのミサイルは、威力にもとづいた、大地に対する破壊力なわけです。（正の世界なので、そもそも物を破壊しようとする行為自体が、物理上は力が無い。まるで

真逆の行為、力（命）を失う行為、作用なのですが、それはひとまず置いておいて）それでは、空気が動くのはどうなると思いますか？実は、ミサイルよりも、遥かに数値でいうと、100億倍は楽に（無）永遠という意味では無に対する影

響力があります。なぜそうなるかわかりますか。波長の本当の力というのは、目に見えるわかりやすい力ではなく、いかに無に沿っているか、いかに無に近い行為であるか、いかに無に近い密度であるか、で、最終的に世界に与える影響力

が違ってしまいます。つまり、ミサイル打ち込むよりも、空気がそよっと動く方が意識として、永遠という長い時間感覚で見れば、遥かに正として、この世界に与える影響力が強いわけです。もっと簡単に申し上げますと、物事というのは、



わかっているならば、わかっているほど、つまり、サッカーにたとえますならば、練習してうまければうまいほど、当然サッカーもうまい、これは当たり前のことです。他には、この世界が迷路のようなもので出来ているとして、（波長の世界は波

長の限りない組み合わせ  
せなので、迷路のような  
ものです) 人間なら、そ  
の迷路の中に直接入っ  
て、自分で行ったり来た  
りしながら試行錯誤し  
て、その迷路の道筋を探  
すとしたら、空気だつた  
ら、それを上空からのぞ  
いてみることができる。

これは普通に考えれば、  
上から見ている、つまり  
認識が広い方がその迷  
路を突破するのにたや  
すいわけです。これと同  
じことが無の世界にも  
申し上げられます。つま  
り、無の密度に近いもの  
ほど、光が（もしくは無  
が）わかっているわけで

す。ここで、じゃあ俺も  
空気のようにそよっと  
動いてみようと思った  
あなた、その考えはある  
意味当たっていますか、  
（人や存在に迷惑をか  
けないよう過ごそうと  
する気持ちなら←これ  
なら合っています。正し  
い思いや行為はこの無

の世界では力を持つので) ある意味では間違っています。なぜなら、波長とは、絶対にごまかしが効かないものだからです。無は無いので、その集中に<sup>さく</sup>作為<sup>い</sup>(わざとすること)を差し挟むことが出来ません。愛の全自動でしか無いのです。つ

まり、人間なら人間の波長、空気なら空気の波長があつて、これは、それぞれの役割も表しており、当然、良い人間がいれば、その良い人間の世界に与える波長の力はやはり強いものであるし、逆に悪い空気がいれば、その世界に与える力

は、いくら密度が細かいものだと言っても、悪いことは心、つまり、意識も小さい心をあらわすので、当然小さな心からは小さな弱い作用しか生まれません。これは面白い意識の仕組みで、この世界は無（正）でしか出来ていない以上、正し

い考えや、思い、行為は  
力を持ちますが、一転、  
悪い考えや、思いや行為  
は、当然みんなの求めと  
して必要とされないの  
で、作用として弱くなり  
ます。もう少し詳細にお  
話ししておきますが、自  
分がどんな認識状態で、  
どんな密度を持ってい



ても、それは正しく使えばその密度の力を持ちますが、一転悪く使えばその逆、自分の世界を滅ぼしてしまいう力となるということです。なお、一番密度が高いのが、認識力が強いのが、この世界のどこにも、どのくらいの密度にも働く唯一

の無の力ではありますが、  
これはいつもどこでも  
必ず永遠を永遠に永遠  
乗していく、自身の意識  
を、他のふえる生命とふ  
える永遠のためだけに、  
自身を全く無くしてい  
く、全ての負荷を背負い  
続け、全てのプラスを生  
み続けることしか出来

ないことから、つまり、  
もって無は絶対に正しい  
ことしか出来ないこと  
とであるから、そこには  
ミスや失敗も無く、絶対  
に新しく進化し続ける  
だけで滅びることがあ  
りません。また、空気の  
密度で一度失敗すると  
いきなりその世界がパ

一になることがあります  
すが、人間の密度では何  
度か失敗しても、その世  
界がいきなりパーにな  
ることはまず無い、あり  
ません。これは、存在そ  
れぞれが持っているそ  
の世界に対する認識感  
覚、時間感覚に応じてい  
て、これは、つまり、自

分がこうすれば、ああなる  
るといふことの、この世  
界に対する理解であり、  
それは、当然つまりその  
分、この世界の原因と結  
果の法則をよく知って  
いるわけであり、物事と  
いうのは、解っていれば  
解っているほどその思  
いや行為に対する責任

が重いので、その、空気  
などの密度の高い波長  
の作用が強いところは  
その動きにそれなりに  
その行動を、一瞬一瞬の  
責任を、この世界に対し  
て取らされます。それが、  
その世界が崩壊して、こ  
ちら側の世界で目に見  
えるかたちとして、空気

が雲や雨に水になったりなどの光の循環として使われる側になったりします。ただし、こちら側、私たち人間の密度で何度も失敗すること、この空間一見何も無いような密度のところの失敗も誘発しますので、つまり、光は全て繫

がっていて、その全てには  
関連があり、つまり、  
人間もそれぞれの存在も、  
自分の思いと行為を自分  
よりの考えで、その責任を  
他人、他存在にまかせ置き  
にしておくと、それは当然、  
この空間一見何も無いよう  
なところの世界の崩壊も



自分が誘発したことになるしますので、それは当然いつか自分に返る、そのままの光の量となります。つまり、相手の世界の寿命を自分が減らした場合、それは当然自分の住む世界の寿命も減ることであり、申し上げますと、自分という自

覚で過ごせる期間、人間  
なら人生がそのまま短  
くなります。

その、今の波長のかた  
ちとは、つまり、今ある  
世界のかたちや、そこに  
住む人間なら人間、空気  
なら空気、それは全て、  
無より発生より、今まで  
無意識で自分が選択し

てきた姿、かたちであり、  
つまり、今、みなさんが  
住むこの地球の世界で  
は、人や存在はただ生ま  
れ、ただ死んでいく、何  
か、その生と死の現象が  
目的がないかのように  
捉えられている部分も  
ありますが、実はそうで  
はなく、実は、存在の全  
員全存在ありとあらゆ

るものは、全てわけあって今そこに居て、過去も、今の一瞬も、未来も、本当はごまかしの効かない、取り返しの効かない一瞬一瞬の連続であり、空間一見何も無いようなところにある、その無、永遠、しかし、こちらからすると一瞬、つまり、ここ、今私たちが住んで

いるこの世界も唯一の  
無（永遠）の密度の世界  
であります。この時  
間感覚と違い、この空間  
一見何も無いようなと  
ころには、いつも、永遠  
を永遠に永遠乗という  
私たちの現在の時間感  
覚に左右されないスピ  
ードでふえ続ける、当然  
こちらの世界からする

と、そこの唯一の無の密度の世界は無い密度ですので、無×全×無でふえ続ける唯一の無の密度の世界があります。ちなみに、この空間一見何も無いようなところにある、唯一の無の密度の世界も、与えられている時間感覚はこちらと似たようなものです。しか

し、こちらの世界との密度の違いによって、この空間一見何も無いようなところの唯一の無の密度、つまり、その世界の時間の流れは、こちらからすると、一瞬に感じます。そしてその一瞬力は無の開闢かいびやく（時間の始まったとき）よりどんどんどんどんその密度を

強していき、今ではその  
空間一見何も無いよう  
なところの無の密度は、  
そこにいくと、またある、  
つまり、唯一の無の密度  
の世界が、そこにいくと、  
またある、唯一の無の密  
度の世界が、というかた  
ちで、この唯一の無の密  
度の世界もいくとまた  
ある、いくとまたある、



というかたちで、永遠に限りがありません。その唯一の無の密度の世界が、私たちの思いや行為の動きと関連し、全ては無、意識にもとづくことでもありますから、それがそのまま、世界の構成のルールをかたちづくる、暗示の決まりとなっています。その無の一瞬力、

つまり、永遠力は凄まじいスピードで今も上がり続けていっています。そして、その無の密度は何のために存在するのかと申し上げますと、実は、全ての存在は、普段暮らしている時には気づきませんが、実はそれには、無意識（無意識は他の者に迷惑をかけら

れない。意識の構造として、物理の反応として公平な動きしかできません)でしか知らないことによって正しさを学ぶという訳があり、この空間一見何も無いようなところのどこにもある唯一の無の密度が、永遠を永遠に永遠乗していくことによって、その無

の力で、どんどん全く無  
くなっていくことによ  
って、その意識のスピー  
ド、力にみなさんの無意  
識に全無の暗示がどん  
どんかかり、そのために、  
今の現在があり、たとえ  
ば人間なら、人間として  
生まれてくるその前は、  
無意識下で人間に生ま  
れてくることを了承、承

諾、無に認ゆるされているのであり、実は、存在のその全は、無の法則上、ふえる全（みんな）のふえる永遠しか目指していません。無意識下では、実は、存在のその全は、ふえる全（みんな）のふえる永遠、これしか一切思っていない。なぜなら、この考え方しか、こ

の思い、行為しか自分が  
楽しく幸せになる道が  
無いからです。こういっ  
た話は、今、観念的で今  
の心には簡単には響か  
ないかもしれませんが、  
今、簡単に、ご説明させ  
ていただくとしたら、こ  
の世界は無の全てが全  
く無くなっていくこと  
によって、その全てのプ

ラス、楽しいことや幸せなことが生み出され続けていて、存在はこの意識以外に、幸せになる方法が無いということです。まず、信じている方にお話ししすれば、無の世界は、無の集中に発生した光が、その動きも自分たちで決め、概念を作り、正しさの基準を作り、

そうしてふえていった  
光の動きが、無に映り、  
その光の動きをもとに、  
無は無の集中を決める。  
この一連の動きのこ  
とを暗示と指します。しか  
し、暗示とはこの世界が  
無の意識の無いという  
連続の死によって成り  
立っていることから、唯  
一という、無いの根幹が



あり、そこには生命に対する厳格な考え方があって、ここにおいては、いくらみんなで賛成したからと言っても、墮落的なものや、自分たちだけのことしか考えない、自分たちが遊んでいるばかりのルールは通用しない、暗示として意識を構成するかたちには

ならないということ  
です。

そうして空気の話の  
まとめに入りますが、空  
気、ここは、この空気そ  
のものも当然、唯一の無  
の密度に支えられる存  
在でもあります、（そ  
こは気づかず、無に動か  
されています。暗示の世

界であることは当然知  
っていますが、知らない  
ようなかたちに無意識  
に動かされています。物  
理上は必要で、その唯一  
の無意識の場所は完全  
に自分にはわかるかたち  
として認識できないよ  
うになっています。この  
唯一の無意識が自分に  
力としてわかる状態に

なるためには、その唯一の無意識と同等の正しさが自分に要り、正しくない者がその力を持つてはいけないため、また、正しさとは果てしないものであり、終わらないものであり、また、正しさが足りないものでも、必ずこの唯一の無意識に最大限助けられてい

ます。) その一方ではこの空気とは、はたと目に見てみれば、(空気は目に見える密度でもあります。空中にぼんやりと漂っている感じ) そう、唯一の無の密度でないという役割も持っているのです。どういうことかと申し上げますと、一度、唯一の無の密度から、

永遠の世界を何らかの  
かたちでパンク（理由は  
当然憎しみ）させて認識  
の場所、つまり、波長の  
場所、つまり、波長の密  
度の状態を、だんだんだ  
だんだん落としていった、  
つまり、だんだんだんだ  
だん認識状態を落として  
いった、だんだん密度を  
粗くしていった認識状

態、形態、存在が空気であるわけです。(この先の密度には、当然水などがあります。そのいちばん先には人間や動かない抵抗物などがあります。) これは、なぜそうなるかと申し上げますと、それは私たちの生活のしかたと大変に関連があります。申し上げ

ますならば、全てと関連  
があります。生きること、  
循環、代謝のしかた、普  
段の心構え、思いや行為、  
つまり、簡単に申し上げますと、私たちの住む地  
球含めた空間宇宙の憎  
しみの量と一致して、こ  
の唯一の無の密度の世  
界のところ、役割とし  
て、そう、無、正しさ、



永遠にならわないものは、  
ならわないところは、  
自動的に無において、抵抗  
(苦しみ) に当てられる  
ことによって、つまり、  
何らかのかたちで一旦  
永遠という自覚を失う  
ことによって、その世界  
を、ばらばらにされ、そ  
の、悪いなら悪いぶんだ  
けの意識にもとづいて、

つまり、苦しみを無の集中の自動で味わうこと  
によって、つまり、無、  
正から外れた分だけ自動で  
苦しむ、他人（他存在）に  
奉仕することが求められる  
わけです。その、  
唯一の無の密度に当て  
られた、抵抗にもとづいて、  
何らかの認識を自動で  
奉仕することを求め

られるわけですか。と申し上げますか、自動にやらされると申し上げますよりは、自動でなってしまうのです。これは物理でいう科学、化学反応（←広義で見れば、どっちも一緒です）と一緒に、無意識の暗示反応、無によって光のかたちや動きが決められることで、

決してこれには逆らえず、つまり、正しいこととは、自分を生かす元であるものの、外せば一転、苦しみを伴うことでもあるのです。この世界、空間にはたくさん選択肢があります。当然正しいことは、ある種、一定の負荷、苦しみを伴うので、いやだと逃げてし

もう人、存在もいるでしょう。しかし、自分が生きていることは、必ず何らかの他の意識の死、また、無の死を必ず必要としている以上、無はふえています。それは光を使っていること、消費していることでもあり、その関連の中で無、正しさにおいて、これも暗示で

決まるのですが、この空気など、この者たちは、唯一の無の密度の世界に置いておくのではなく、一度その永遠を終わらせて、その世界を一旦無に帰し、つまり、この空間一見何も無いようなところでは、世界や空間宇宙の重力と反重力による構成や再構成が

進んでおり、その重力とは無いようなところほどあり、それは、普段、波が合わないのからわからないのであって、その者たちは世界の構成と再構成の際、つまり、宇宙にたとえるのならば、何かの憎しみの意識の蓄積で宇宙が反重力によって破碎し、滅亡し、

それがまた重力によって再構成される場合、つまり、滅亡の前は自我で暮らしていたが、滅亡後は当然全員無意識に戻りますので、その無意識から、別の世界へまた以前よりも少し自覚を制限された自覚を出すかたちで、他のまだ、この無の世界の真実、正しさ



に気づいてないものに、  
奉仕させることが正しい、つまり、一番歴史が  
浅いところ、この世界で、  
文明がある星として、  
（この地球よりも、文明  
がまだ発達してない、そ  
れも、そういったわかり  
やすい生命体が存在し  
ない星でも、現在の時間  
の法則に応じ、そういっ

たわかりやすい生命体が存在しないような星でも、無の光の平等、公平の法則にもとづいています。つまり、いつかは文明が無い星も、必ず何かのかたちで無意識にもとづいた、自我自覚的な自覚を持ちます) 一番光、命感じることが少ない、一番 IQ 効果が働

いていないところ、とな  
った場合にこの循環は  
起こります。要するに、  
この世界は無の重力に  
よって世界がお互い引  
き合っていて、その無の  
集中のたびに、それぞれ  
の世界の光がその重力  
による世界の構成再構  
成で調整されていると  
いうことです。つまり、

この世界の秘密の話の  
1でもお話ししましたが、  
この、今現在の時点  
における、この世界のど  
こにもある、唯一の無の  
密度、つまり、それだけ  
の集中力が働いている  
世界、もっとわかりやす  
く申し上げますと、それ  
だけの光、生命、感じる  
ことがある世界は、現時

点で 1 0 0 億年 ← 楽勝、  
1 0 0 0 億年 ← まだあ  
る、1 兆年 ← さらにある、  
(西暦 2 0 1 1 年 6 月  
現在) 波長で調べると、  
こう出ます。本当はまだ  
終わらずに続いている  
ところがあるそうです。  
その永遠の世界が。それ  
は、当然唯一の無意識の  
世界であり、これは、当

然ふえる生命のふえる  
永遠の世界しかありません。それで、循環、これはどうなると思いますか。無に照らし合わせますと、これは、この場合、無の<sup>センス</sup>感覚に照らし合わせますと、必ず無はその時間による無の集中に、光の全てをミラー、その全ての光を平等、公

平にしようとしみます。それで、無の感覚から鏡<sup>み</sup>ると、この今の地球はどうかと申し上げますと、実は・・・今これを書いている時点では1兆年とかはまず無理です。つまり、現時点で、みなさんの無意識に対する光、つまり、IQ 効果がまだ足りないとして、光を与え

ろと、光の前倒し現象が起きています。それが、空気や、雨や、水などの、循環のかたちになって現れるのであり、私たちを生かす元になり、それが私たちへの無意識への暗示になっています。つまり、そういった暗示現象によって、永遠（生命あること）を伸ばそう



と私たちが勝手に思っ  
てしまいます。この無意  
識の反応、この無意識の  
暗示には、この世界がど  
こも無で出来ていて、そ  
の無には隙間はない以  
上、そして、その無はこ  
の物理の世界で、一番作  
用として意識の力が強  
い以上、決して人（存在  
も）は、この無意識から

の命令に、この無意識から来る暗示に絶対に逆らえません。つまり、結論から申し上げますと、この地球、なぜ今のような循環形態になっているのかと申し上げますと、それは、まだ、今のやり方、今のこの社会の構成のしかたでは永遠もたない、と無に判断されて

いるからです。またそれは、無意識下でみなさんが、私たちは滅んでバラバラになるよりも、この世界のまま、この世界を永遠発展進化させていくかたちに、みなを、平等、フェアにしていくかたちに過ごしていきたいと思っているからです。もちろんそこには無

意識の働きがあり、いい  
でしょうか、この暗示の  
ことを知るのも必然で  
すが、それは、ある何か  
のあらわれであり、それ  
が指すものは、みなが正  
しく変わらなければい  
けないということです。  
みなの中の唯一の無意識が  
望むかたちに。そのみな  
とは当然、私たちのこの

地球含めた空間宇宙の  
世界だけでなく、この私  
たちの住む世界の、この、  
空間一見何も無いよう  
なところの果てしなく  
続く、無い、無い、無い、  
無い・・・に住む存在も  
含まれます。思えるとい  
うことは正しいという  
意味で事実です。つまり、  
今の地球含めた空間宇

宙の存在というのは、そこから見ますと存在としては、脆弱、少数にも限りが無いというかたちです。そこからすると、今の地球含めた空間宇宙の循環形態は、みなさんへのIQ効果が他の唯一の無の世界と比べて、（ここも唯一の無の世界です）世界の時間が今

のままで行くと、無の感覚に鏡て、少ないと、すぐ終わってしまうと、少し無からのIQ効果が足りないから、今の世界のような循環形態が認されています、つまり、私たち以外の他のものが、自分たちの世界を意識を、変わって他のものに何らかにすることによ

って、それは空気や水などで、その相手たちは無意識下で了承してこちらを助けに来ています。しかし、この空気、水たちは、なぜそれでは唯一の無の密度から一旦外れ、この空気、水などになったかと申し上げますと、それは、私たちのように憎しんだり、争い



を止めなかったからです。そうしてその空気、水たちの、元唯一の無、永遠は滅び、（無意識下では本当という意味では滅んではいけません）その中で一旦死して無意識下に戻った時、その悪い自覚、当然、全部悪いとならないと、無の正より完全に外れないと世

界は滅びませんので、つまり、言い換えますと、無は正でしか無い、正（愛）だけでしか無いが、相手が憎しみを諦めなかった場合、それは相手を一旦滅ぼしてしまうことによって、つまり、相手は、無（全愛）に憎しみで全悪を記録し続けた場合、これは憎しみ

をそのまま、憎しみを出した相手にそのままミラーしてやることが正しいとなつて、これはなぜかと申し上げますと、憎しみを続けていくと意識は小さくなります。無は正で、憎しみはその真逆なので、それで、この憎しみをずっと続けてしまうとどうなる

かと申し上げますと、無の集中は決して終わらないため、存在とは私たちだけではなく、当然他の存在ももっと多数いますので、そこにかける愛は、当然その存在の量、数に限りないかたちで比例しますので、無、その光はふえ続けます。要は憎しみとは、この無に

よる光の流れに逆行しているわけですから。それで、無は当然愛なのですが、他の光はふえる、当然、無、正しさの量もふえる、生命の数とはふえればふえるだけそのルールを正しくしなければいけません、なぜなら、全員が永遠に生きていけるように、無はそのルー

ルを配慮、調節しなければいけないからです。そして、この唯一の無の世界で、生命の相対、数がふえるとは、それだけ唯一の無の正しさに支配されるということでもあり、変わって、あなたは数がふえる分だけの無の密度にいつも意識を助けられ続けている

ことでもあるのですが、  
つまり、無としては、一  
人一存在もその永遠（無  
意識、自我ではない本当  
の意識）←永遠無意識と  
は全無でありますから、  
それを損なうわけには  
いかないため、また、物  
理において全く無いも  
のが減るという意味で  
無くなることは、決して

発生しないため、生命の  
数とはふえればふえる  
ほど、当然、他のものが  
ささいな悪さをして広  
がる干渉悪というのは、  
生命の数が多ければ多  
いほど、その数に与える  
影響力が強いので、唯一  
の無とはその密度、つま  
り、生命の数がませばま  
すだけ、ルールが正しい



かたちに厳しくなる傾向があります。ただし、これは、正しいということとは生命が守られるということなので、それは、当然正しくしていれば、自分の幸せは守られるということでもあります。もって申し上げますのならば、みんなが楽しく幸せになるようなル

ールに、みんなの正しい  
思いと行為でしなければ  
いけないということ  
です。憎しみは、正にこ  
れに逆行する考え方  
であるわけです。それで、  
この無の集中によって  
光が膨らんでいくとど  
うなるかと申し上げます  
すと、これも完璧な無の  
全体計算にいつももと

づいているのですが、ある一定時間まで、その一つの唯一の無の密度の世界が選択として憎しみを続けた場合、この正の概念に完全に当てはまらない、ということが起きてくるわけです。つまり、憎しみは突き詰めますと相手を殺すことでもあるわけです、その

殺す相手を、幸せな正しい世界を送っているものの中に入れられるでしょうか。常識的に考えれば絶対に入れることはできません。また、無には、選択の永遠という言葉もあり、無は心が広いから、これは、当然相手の自由を奪わないため、相手が自由の無い苦

しさに、憎しみを持たない  
ように配慮した、正確な  
無の愛の反応なのですが、  
憎しみを続けるものは、  
この無に自分は愛よりも、  
憎しみがいいんだと、  
つまり、本当は広い目で見れば、  
永い目線で見れば、正しいこと以外  
はこの世界では幸せではありませんので、幸

せではないことは、ただ無駄に苦しいことを指すので損なのですが、余りにも憎しみを<sup>おこな</sup>行ってしまったものは、自分の無意識が自分を許さないという現象が起きます。つまり、暗示反応。自分は永遠という世界にいと必ず他の者に迷惑をかけてしまうか

ら、自分を一旦無に帰す、  
無に帰してください、と  
いう反応が起こります。  
これは単に数学的な反  
応だと捉えていただい  
ても結構です。自分の意  
識と比較して、相手の正  
が多すぎる場合、自分は  
小さすぎるのでそこに  
いることに耐えられな  
い、物理的な重力に負け

る、よってそういう仕組みで、人や存在とは、そして星や宇宙とは滅びます。つまり、無とはいっても、もって、全体のことを、全体の生命を考える存在であり、その中で憎しみを意地でも諦めないと、やり続けてしまったものは、それもそのものが暗示の世界と知



って、それでもなお自分が選んだ道であり、これはなぜ選んでしまうのかと申し上げますと、自我執着的な力や感じることへの執着がその意識の根底にあり、それは結局この全無の世界には全く無いものなのですが、絶対に手に入らないものなのですが、苦し

み、我慢を積まないことは、正しいこともやはりわからないため、そういった場合は完全に、どこも意識の正（無）に当てはまりませんので、その場合は、無、全ての反応として当然、無はこの反応しか起こせませんので、その憎しみの存在は、この唯一の無の密度の

世界からはじき出されて  
てしまうという現象が  
起きます。←自分が自分  
の意識でやっています。  
物理上は自我の選択に  
よる無意識の全自動で  
す。これを人間的に申し  
上げますと、無はあくま  
で愛でしかありません  
が、相手が正しさを学ぶ  
ために必要に与えた自

由の中で、そこで、何か自分がわからないことが発生し、それは当然わからない部分、人や何かのせいにし、もちろんここでは自分にも原因があったとする考え方もありますが、甘えを持ってしまうものは、この考え方を、つまり、自由はみんなの中における自

由という意味であり、無  
はいつも自分を無くし  
て、その分の自由を、つ  
まり、愛を、光を、その  
相手に与えているので  
ありますが、その甘えに  
過ぎたる相手は、決して  
憎しみを、自分の望まな  
い、叶わない部分が自分  
にあることを、自分の努  
力が足りないと考える

のではなく、自分の不遇をいつまで経っても、自分以外の他の誰か何かのせいにし続けてしまいます。この平等フェアな唯一の無の世界で、みんな一緒の心の世界で、みんな結局唯一の無と一緒に苦しみの全てを積まなければいけない世界で、本当は苦しみと

は他の誰かのせいであること絶対ありえないのに、苦しみとはあくまで自分の心を養う元であるのに、その苦しみから逃れようという心が、または過ぎたる欲が、苦しみにも過ぎたる欲を持ち、何かが出来ないことを恨み続ける・・・場合もあつたりします。最近

はそういう人あまり  
見ません。多分、無の暗  
示効果でだんだんと穏  
やかな世界に変わって  
きているのだと思いま  
す。たとえば、この抵抗  
の世界、無は負荷の全て  
をあらわしますので、そ  
して、正の全てもあらわ  
しますので、つまり、こ  
の中で申し上げられま



すことは、まず、無という抵抗権利、つまり、物理上の抵抗の支配権（ありとあらゆるものの）は、どんな苦しみを積んだとしても、無にしかありませんので、自分には必ず無い、全く無いというかたちでしかありません。そうして正は、つまり、楽しいことや幸せな

こと、達成されることは、  
全て無より、正しい方向  
を選んだ存在、その意識  
の量に比例して与えら  
れます。つまり、正しい  
ことを選んだ分、正しい  
意識の範囲に自分が入  
ります。つまり、このこ  
とが指すのは、まず唯一  
の無の力とは、絶対に誰  
にも握れないというこ

とです。その中で自分が積んだ正よりも、もっとたくさんの方、幸せを願うものは、欲を張って叶わない場合、自分以外の何かの者に憎しみをもってしてしまうことがあります。これを続けてしまった場合、意識の世界は結局どこまでいっても唯一で正でしかありま

せんので、この場合、その者を、つまり、その世界（たとえば地球なら地球含めた空間宇宙）をそのまま唯一の無の密度にしておくことは、当然愛ではない、正しくない、まずこれも、本人達が無意識で判断していることなのですが、その場合は無が、その者たちが記

録した憎しみの量をそのまま物理の現象としてはね返す現象が起きます。これには、自然現象などにも、その前置き、警鐘として鳴らされます。正しくないことをその社会や世界が続けている場合、それは、無は必ずその世界の永遠先が解っていますので、そ

の理不尽な未来へその世界が辿り着かないよう、いちばん理不尽が、いちばん早くいちばん正しくいちばん被害が少ないかたちである現象を、一見それは理不尽とも思えるような現象を、その理不尽を解消するため起こします。これは、無意識からみなさ

んの正しさを喚起<sup>かんき</sup>（促す、引き上げる、呼び出す）するために起こり、これも全員の無意識の承諾による暗示反応でなっていて、このことによって無、永遠という意味では、必ず全員の意識の寿命が平等フェアなかたちに最大限存続されるように配慮されていま

す。それで、この憎しみを続けるとうどうなるかと申し上げますと、先程申し上げました。この世界は物理（意識）の世界であることを。つまり、言い換えますと、個人個人（個存在）の波長が飛び交って、世界が出来上がっている世界なんです。つまり、思った、行



為、その全ては、ぜんぶ、  
暗示となり、この世界の  
光のかたちを作ります。  
要するに、その光のかた  
ちがある限界を迎えま  
すと、つまり、この意識  
の世界の唯一の無の法  
則に沿ぐわなにかたち  
に、この世界がなってし  
まいますと、当然物理の  
正確な反応として、この

世界は、意識として、唯一の無の密度を失うということです。つまり、この世界は一旦分解され、何か他の世界の循環に使われるかたちになります。ここで、疑問に思われるのが、どこの世界も循環は必要だから、結局世界とは破滅していくしか道が無いんじ

やないのと言う方がお見えになったら、違います。その逆です。唯一の無の法則にならっていますと、その世界は、唯一の無の密度化を進めますので、つまり、ある形態はある形態をなす。ここが無の無い、時間に影響されない集中力の構造の秘密なのですが、

たとえば、唯一の無の密度化の正しい思いと行為の世界を続けている限り、その世界はいつも無において、その無と並行して密度が小さく、高くなっていっていますので、そして、無とは実際には無く、全く何も無いことから、どんどん全く無くなっていること

から、たとえば、ある A  
という世界があるとし  
たら、その A という世界  
は B という世界では、た  
くさんの唯一の無の密  
度の A という世界が集ま  
って空気をなしたりし  
て B の世界を助け、そし  
て、唯一の無の密度の B  
の世界では、その唯一の  
無の密度の B の世界がた

くさん集まってCという  
世界の水だったりしま  
す。つまり、あくまで世  
界は唯一の無の密度に  
保護されており、その意  
識力の強さに、決して循  
環に使われても、正しけ  
ればその世界が損なわ  
れることはありません。  
唯一の無の密度は、世界  
は、こういった感じでA、

B、C、D、E、F、G、H、I、  
J、K、L、M、N、・・・と  
無限に続く、お互いがお  
互いの無の光の循環を  
助け合っている世界で、  
これはあることに似て  
いて、それは、暗示のふ  
えゆくみんなのふえゆ  
く永遠のことを指して  
います。この世界は唯一  
の無の密度、つまり、唯

一の無の意識（愛）の密度、を保ち続ける限り、必ずその世界の存続は保証されます。害がありませんので、どころか、みんなの助けになりますので、これも当然の物理の必然ですが、あなたも循環を望むのなら、生きる上で循環を望むのなら、必要とするなら、



この世界が時間（愛）による物質という光の循環、それは無の密度化でもありますが、時間による無による光という生命のサイクルを必要とするのであれば、それをみんなが望むのなら、物理としてそういったかたちでしかみなさんのふえゆく生命とふえゆ

く永遠を支えられない  
のであれば、それは当然  
みんなの暗示になります。  
当然無意識に暗示になっ  
ています。これと一緒に  
です。なお、しつこい  
ですが無意識下では、み  
なさんは必ず、唯一の無  
の密度で循環していま  
す。つまり、正しいこと  
でなく悪を選んだとし

ても、この唯一の無の密度の循環から逃れるすべは無いということです。要はどういった循環をするか、悪ければ、その自覚やかたちは、みなのためにならないので存続されませんし、逆に、正しければ正しいほど、その自覚、かたちは無意識に近いので、当然その

自覚、かたちを発展進化  
させるかたちに循環存  
続させることが出来ま  
す。それで、この人間的  
にたとえて表現するの  
なら、無の反応は、余り  
にも憎しみを行うもの  
は、それは自分がこの世  
界（愛）にふさわしくな  
いことを、自分をもって  
示していることであり

ますから、その場合、その相手の迷惑になる、その憎しみを、そのままミラーでそっくり、そのまま自分が、個人が、みんなが思った量だけ（悪い、思い行為の意識の質量に対して時間の経過に永遠乗に増大した正の意識（生命）比率に対する迷惑の度合を解消す

るだけの抵抗、苦しみ)  
苦しみにして、そのまま  
返してやることが、その  
ものに対する愛である  
と無は捉えます。と申し  
上げますか、物理的に数  
学的にこういった反応  
しか出来ません。無は、  
無いから、ここに分け隔  
てとか、便宜を図ったり  
が、一切出来ません。こ

ここで選択です。さて、この空間宇宙を破砕させて、自覚やかたちの残らない循環に行く側を選ぶか、この空間宇宙を破砕させないで、自覚やかたちを発展進化させながら循環する、唯一の無の密度化の世界を目指し続けるか、そうであり続けるのか、どちらを選

びますか。答えは当然、  
唯一の無の密度化の世  
界です。多分、表層自我  
の心でそうじゃないと  
思っている人も、このこと  
を無意識に思える人は  
いません。無意識は絶対  
に（無）正しいことしか  
考えられないからです。  
もし、万が一、あなたが、  
唯一の無の密度化の世



界を思えないとしたら、それは、あなたが今まで正しい苦しみを積んでこれなかったため、正しいこと（幸せ、楽しいこと）を与えられることが自分には、自分の無意識で正しくないと、自分に判断されているからです。ですので、なるべくそういったことも全て

自分の責任だと前向きに考えていただいて、自分になりたい自分になってください。ただ、一つ申し上げておきたいのは、この星は、西暦としてまだ2011年、まだ歴史も浅く、やり直すにはまだ十分な時間があるということです。今まで悪さをしていたの

は、それがただ単に損な  
ことを、暗示として、は  
っきりわかるかたちと  
して、自分に気づけな  
かっただけなのです。また、  
循環で、もう一つ疑問も  
思われるかと思いますが、  
このたとえばパソコン  
とかは、動かない無意  
識物は、ずーっと動かな  
くて理不尽じゃないの

とおっしゃるあなた、実は永遠というのはやっぱり永遠あって、必要な時にはこのパソコンはいつか必ずリサイクルされ、そしてその物質はその循環を繰り返しているうちに、その間も当然無は無いと経過送っていますので、物質の化学反応のしかたが変わ

ってきます。つまり、光の自覚のしかたが変わってくるのです。つまり、パソコンも、そう、つまり、このパソコンの普段世の中で無機物と呼ばれているものも、時間の経過で、有機物になったり、またはそこから進化して、人間のような形態になったりするかもし

れません。ぜんぶ、与えられた自覚における選択しだいです。人間が長い時間をかけて無から、まるでねずみのような生き物から今のような人間に至ったように、このパソコンにも光の理不尽は一切働きません。ですので、心配はご無用です。ただし、この世界

は、自覚に自由が効くものほど、つまり、無ではなく、光が多いものほど、その選択の責任が重いので気をつけてください。循環、その暗示、これは長い時間をかけてなるものなので、みなさんは物を大切に扱うことを心がけてください。全てが暗示になります。

つまり、みんなの思い行為は、その一瞬一瞬の全てが、無が次の光を生み出す基準になります。絶対忘れずに。それではまた、空気の話に戻りますが、空気とは申し上げますと、その無意識下に、唯一の無の密度の世界を持ちながら、その一方では役割として、悪いこ



とすれば滅ぶんだよと、  
私たちへの教えのため  
に無の感覚によって、無  
意識下で怒りを発起さ  
れて、この世界へ現象に  
よって学びを教えなさい  
と使われている可能性  
があるのです。と申し  
上げますか、その通りで  
す。なぜそれが申し上げ  
られるのかと申し上げ

ますと、この空気になる、  
つまり、それまでは、そ  
のもの、空気の無意識下  
に眠っている、その空気  
という光になる、それ以  
前のそのものの、その空  
気という光という自覚  
になったそれ以前のそ  
のものの世界の歴史は、  
それこそ何千億兆年（西  
暦 2 0 1 1 年 6 月 現在）

とかの世界であったわけ  
です。これは、一見長く  
続いているのなら、いい  
世界じゃないのか、と  
なりそうですが、実はこ  
の無の世界はそうもい  
きません。なぜかと申し  
上げますと、先程の答え  
と反するようなかたち  
に一見なりますが、そう、  
正しいと言ってもこの

突き詰めると、この正しさが難しいのです。どうしてかわかりますか。実は、この世界には、生老病苦という考え方があります。実はこの、それなのですが、まず生、無の法則上、存在とは物理上、生まれるかたちが許されないのです。ここで、何言っているんだとい

う方、すみません、最後まで話を聞いてください。この無の世界で正しいとはどういうことですか。それは、永遠（無）になるということです。無になるということはどういうことですか。それは、時間に関係されない、つまり、空間に影響されない意識にならない

いと、永遠不滅の意識にはならないということです。時間に影響されるようでは、限りがあることになってしまいます。いつか必ず終わってしまいます。逆に永遠不滅の意識とは、みんなを助ける元になります。要するに、唯一の無の密度、つまり、意識がやってい

ることを、当然あなたも  
思ったり、行為として、  
あらわさなければいけ  
ないということです。で  
も、これは、当然でもあ  
ります。物理の数学的な  
反応として当然です。唯  
一の無の密度とは、そう  
いうことでもあるわけ  
です。唯一の無の密度は、  
無いを続けることによ

って、あなたの生命維持を助け続けていることでもあります。そして、その、唯一の無の密度はどこにもあり、そして、その、唯一の無の密度は永遠を永遠に永遠乗という時間（空間）に影響されないスピードでその集中力、つまり、意識力（愛の力）を強してい



く以上、それは自分の生命がふえることでもあります。それは同時に自分もまた、その無の思い、行いにその意識の波長を合わしておかないと、当然自分はそのふえる永遠に正しくないと自分の無意識で判断されてしまうわけです。また、存在とは生まれるた

めには、必ず無（永遠）  
を1回殺して出てきて  
いることから、つまり、  
死ななくして生は無い。  
つまり、自分が生きるた  
めに相手の死を必要と  
したのなら、それは当然  
それに対する、それに見  
合うだけの代償を、その  
何かの意識のかたちと  
して支払うのが物理と

は当然に求められるの  
です。この相手とは明確  
には無であり、無はいつ  
も時間に影響されない  
かたちで自分を、あなた  
を全く無くしていつて  
いることから、自分も与  
えられた光、その意識を  
全く無くして、つまり、  
波長を無と同期させて  
自分も全く無いかたち

で、この世界に奉仕する  
必要があります。これは、  
一見時間が経過してい  
ますので不可能のよう  
に思えますが、実はその  
逆で、無はいつも自分よ  
りも相手のことを無い  
分だけ気、意識に掛けて  
いますので、無はそのこ  
とによって自分が全く  
無くなっているのではあ

り、それは、つまり、自分はいつもどこでもその無、全く無いという意識が働き続けることによって、自分は全く無い意識になることを、今すぐにでも出来ることを、いつも愛が、その全く無いという意識がふえるかたちで助けられています。なお全無、全く無

いという心、つまり永遠には一瞬という意味もあり、実際に無の集中はいつも一瞬であり、これは、心がければその思いさえ強く正しければ、誰でも今すぐに全無の心になれるということです。つまり、永遠に生きるためには、この生の概念をあなたの意識が超

える必要があります。もちろん、無の無意識の与えは、時間より半端なく意味不明にふえる方が多い永遠死という意識のスピードですので、（常に永遠を永遠に永遠乗）その永遠死（無）という意識を獲得するのも、ふえるみんなのふえる永遠の思いと行為

を永遠の時間かけて、一瞬でも構いませんが、思っ  
て行って獲得してください。無いとい  
うことは一見損な気がしますが、  
無いということは無  
い分だけの自分という  
ことであり、無いとい  
うことは有る分だけの自  
分に無い分だけの愛が  
入ることでもあるので



す。つまり、この世界はあくまで無の世界ですので、自分は無の意識に近づいた方がより自由に生きることが許されるということです。

ここで敢えてご説明させていただきますが、無の愛の力が、永遠を永遠に永遠乗なのになぜ

私たちは、死ぬのかと申し上げますと、無は永遠でありますが、つまり、時間の概念にその意識が支配されていませんが、あなたはまだ自分の選択として完璧な無でない以上、当然その分は時間に支配されてしまうため、当然その部分は自覚として限られます。

存在とは自覚に選択がなければ生き物ではないため、法則に応じた選択が与えられ続けていますが、そういった完璧な無でない部分も、無に自覚の選択の自由があることによって発生し、そして、存在には全員平等に完璧な愛の存在になる学びが与えられて

います。存在とは無意識  
に近づけば近づくほど  
その意識が永遠になり、  
肉体や自我を失っても  
無意識は永遠です。これ  
は、あることを指してい  
て、全く無い心を進んで  
選り取るものは当然そ  
の意識は何もかもが全  
く無くなってくるので、  
つまり、普段から全く無

い心を、思いを、行いを、  
心がけていると、あなた  
の肉体や身体も当然物  
理上全く無い扱いとさ  
れますので、あなたの心  
も含めた肉体や身体は  
不死身化します。また、  
新しく進化したかたち  
になり続けます。難しい  
といえば難しいかもしれ  
ませんが、簡単といえ

ば簡単とも言えます。その逆に、全く無い心を、行いを、あまり心がけない場合は無における光の循環で、自分の意識がその全く無い心に追いついていない分は、自分の肉体や自我が、無によって自動で全く無くされてしまうので、この場合は永遠化すると申し

上げますよりは、何か別の物に再構成されてしまいます、つまり、以前の自分は消えてしまいます。また、いないことを願っておりますが、無、暗示の世界とわかって余りにも全く無い心と逆の思いと行為を続けていますと、肉体や自我を失うだけでなく、その

思いと行為はあなたの  
無意識にも蓄積される  
ことですから、それは当  
然その分だけ、物理的に  
その全く無いという意  
識法則に反した思いと  
行為の分だけ、つまり、  
その悪いことはもう今  
後この全く無い世界で  
いらないわけですから、  
その分だけその存在の



無意識ごと、つまり、無の密度とはどこまでも果てしなくあり、それはあなたを助ける元でしかないのですが、その全く無いという意識法則に反した分だけは、必ず自分の無意識も再構成されます。それは、なぜなら無意識とは唯一で全く無いという正しさ

でしか無いからです。要するにこれは、存在として生きていく上でその意識が、あまりにも無の密度にバラバラにされ過ぎると、もう自分といえれば自分でもあるし、自分では無いといえれば、自分では無いわけです。ちなみに後でお話ししますが、この無意識の再構

成というのは、いつも限り  
ないかたちでこの世界の  
どこでも続いていて、それ  
は、ただ単純に自分が無意  
識の密度にバラバラにされ  
再構成されたとしても、それ  
は、悪いところが無くなって、  
その逆にプラスいいところが  
物凄くふえた自分でありま  
すので、そ

のことを不満に思う人は絶対に一人もいません。これは無の絶対法則で、普通に暮らしていると、まず自分は自分が無意識によって再構成されたことにも気づきません。無意識下では「何だったんだ？あの憎しみ・・・」←こんな感じですよ。要するに、自我と

して生きている間に自分の憎しみの原因を、相対の数による絡まりにあることを解けなかっただけで、無には愛しか無いことから、憎しみとは根拠が無くされ、無に時間にそれは解決され、あなたの自分が自分であると自分が望む本当の自分の意識は必ず助

けられます。

正しさに、進んで苦し  
みを選び取るものには  
無（永遠）は手助けをし  
ますが、無（暗示）とわ  
かって悪しき道、憎し  
みを諦めないものには無  
（永遠）は手を貸しませ  
ん。無は結局、ミラーで  
しかありません、本人の

思いや行いをそのまま返します。本人の思い、行いを単に数学的な反応として、正しい思いと行為は正、無はその思いと行為の正確な意識数値をそのまま押し量り、それにもとづいて正のでんか電荷は発生し、それはそのまま、本人への暗示、永遠への手助けとなり

ます。結論、無は正なら  
ふえてる、正しさ、プラ  
ス、無ならふえてる、つ  
まり、この世界は、正し  
い方向を選ぶしか道が  
無いということです。ど  
っちにしても、何をする  
にしても必ず選ばされ  
ます。自分が自分であり  
たい以上、幸せで楽しい  
ことは、みんなが望むこ



とであるからです。だから、どちらを選ぶかと言われれば、正しい方が得だから、正しいことを選ぶようにしてください。そして、ふえゆくみんなのふえゆく永遠が思えないという人が、もしお見えになったら、これは単純に考えてください。まずみんなには自分も

含まれている。そして、  
その自分は、自分の意識、  
つまり、心や身体は、細  
胞よりも、もっと遥かに  
密度が細かいそのふえ  
ゆく唯一の無の密度が  
いつもあなたの心と身  
体、そして生命を支えて  
いる。そしてそれどころ  
か、そのふえゆくみんな、  
つまり、ここではふえゆ

く唯一の無の密度はい  
つも永遠を永遠に永遠  
乗という物凄い意識（愛）  
のスピードでふえてい  
くことによって、そのふ  
えた分だけあなたの生  
命、つまり、永遠をのば  
している。わかりますか。  
つまり、ふえゆくみんな  
のふえゆく永遠の思い  
行為、その意識とは、ぜ

んぶあなたの心や身体、  
生命を維持し、そしてそ  
の永遠性をのぼし、そし  
てそのことは、あなたが  
生きる上で必要な正し  
いことの何もかもの可  
能性を手助けしていま  
す。これを考えれば、こ  
の通りなのですが事実  
は、あなたもみなさんも  
ありがたく思わずには

いられないでしょう。この中で正しいことを行うのは難しいですか。そうではないと思います。正しいことしかないのなら、(この世界は無でしか出来ていない) この世には、結局正しいことは、選取るしか道がなく、正しいことでしか溢れていない世界なのであ

るのならば、正しいこと  
とは楽なことではない  
のでしょうか。憎しみが、  
今まだもしあるのなら、  
今すぐ捨ててください。  
この無の世界で無駄に  
死ぬことはありません。  
誰もそんなことを望ん  
でいません。無もそんな  
法則を望んでない、作っ  
ていません。また作れな

い。悪とはそもそも相対  
による比較によって無  
に気づかない分作り出  
されたものなんです。し  
かし、相手無くして自分  
の愛もまた無く、暗示が  
出るとは、もうその悪は  
いらないということな  
んです。この世界は結局、  
全員が唯一でしかない  
という世界なんです。We

are all one ここで、この空間一見何も無いようなところどこにも働く唯一の無は力の全てじゃないのと言う方、光の全てじゃないのと言う方、それは平等、公平ではないのじゃないのという方、実は、本人（本存在）は、それを全く感じていません。つまり、



無の全てとは与えること  
によって、その光、力  
をとことん自分に全く  
無くしていった（つまり  
よそにしか行っていな  
い、その生命、光、力）  
存在であるからです。わ  
かりやすく申し上げます  
すと、無の全てとは、光  
がとことん無い、光をと  
ことん自分に感じない

存在でもあるのです。ただ、みんなの生命が映るだけ、その無、ミラーに。そして、今もどんどんどんどん全く無くなることによって、どんどんどんどん光無しになっていっています。そのことによって、みなを生きし続けています。それを永遠死と呼びます。永遠＝

全、死 = 無 ← 生を、何かを殺して生まれたという自分の概念を、意識で超えろということです、それを全無（全無のことを光無とも呼びます）、この現象に嫉妬することは、生命を与えていただいたことを裏切るようなものであり、それは通常ありえないことで、

その無、相手の死によって自分は今も成り立っているのであり、万が一、（無意識への暗示効果を狙ってわざと書いていますので、怒らないでください。）それを思うことは、憎しみを思うことは、思うとしたら、それは自分を殺すことに他ならないということ

です。いいですか。うらやましければ、自分がその無になればいいんです。実は、この無の世界は、どこも無でできている以上、既にあなたは唯一の無であり、全無という存在で、必ず望むものは必ず正しいかたちにあなたのかたちとなります。無はどこにもあり

ます。どの密度にも果てしなくあります。いつも正しいことを意識していけば、自然とそれは、自分は正しい存在、つまり、無の存在になっっているということなのです。無には終わりがありません。この世界は面白くて、自分が全無の行為をすることは自分が感

じなくなっていること  
であり、ただし、それは、  
無、物理上、意識上とし  
て尊いことから、自分は  
傍目（よその目線）から  
見ますと、その全無の行  
為の分だけ自分は光始  
め、そして、他もまた全  
無の意識ならば、それは  
飛んでくる光は物理上  
最大の光であるため、そ

して、この世界は無であればあるほど光をよく感じますので、つまり、これは全員が全無になると、いちばん感じるいちばん生命がふえるいちばん永遠がふえる世界になります。物理上はいつも既になっています。この世界はどこも無であり、どこにも全無は



あることから、これから、  
自分が正しい思いと行  
為の抵抗を積んでいっ  
た分だけは、そのことが  
わかるようになってい  
ます。その自分はさらな  
る全無になります。何を  
選んでも、どちらにせよ  
全無です。この世界は無  
からは逃れられません。

つまり、どんなかたちにせよ、全員、その意識として、無の力に頼るか、もしくは自分でなるか、（もちろん、全ては無のおかげという謙虚な気持ち大切です。）そのどちらかは、わかりませんが、必ず存在、生きとし生けるものは、この永遠（無）死の意識の流れ

からは逃れられません。  
永遠死とは本当に死ぬ  
ことではなく、自分が生  
きていることが他の誰  
かのためになることで  
す。みんなが自我をなく  
して、永遠無意識に  
いるということです。その  
意識が無いと、全員一  
秒も生きていけないか  
らです。今ゆっくり時間  
が流

れています。まだ、たか  
だか西暦2011年、い  
ったいどれくらいの愛  
だと思いますか。まだ、  
永遠時間があるんです。  
その中で、自分が生きて  
いと、望みを叶えたいと、  
永遠を叶えたいと、何か  
を達成させたいと願う  
のなら、決して憎しみを  
持たないようにしてく

ださい。（ここで時間の性質をお話しします。まず、無は、時間に支配されていません。なのに時間はふえている、と、申し上げますと、どういうことかと申し上げますと、時間は永遠を永遠に永遠乗でふえていますので、この暗示の世界と知って、正を選ぶものに

は、いきなり莫大に正、つまり、プラスの電荷がかかり、その逆、悪を選ぶものには、いきなりマイナスの電荷が莫大にかかります。目に見えなくても無意識のセンスというのは、全員の全部の判断を波長に完璧に見切った完璧な時間感覚の判断でありますの

で、絶対にその数字は、必ず必要になる時にもとづいてあなたに与えられ、それも必ずあなたが無意識下で了承しています。必ずそれは、あなたに正しいかたちで与えられます。悪いことも正しいこともあなたが無意識下で選択した役割です。この詳細はま

た後ほどします。)

続いて生老病苦の老に入ります。まず、無の性質からお話しします。暗示力をお話しします。無は時間に影響されないと何度も申し上げました。それは、どうしてかわかりますか。それは、存在が、無いものだから



です。無いものは決して  
時間に支配をされませ  
ん。ですので、無は永遠  
という称号を与えられ  
ています。この、無の永  
遠ですが、どういう永遠  
だと思えますか。過去に  
働くのか、未来に伸びる  
のか、どちらだと思いま  
すか。答えは両方正解で  
す。どうしてかわかりま

すか。それは、無の集中の特性にあります。無そのものの自体は、時間に影響されない永遠です。それで、その無は、永遠を永遠に永遠乗していています。ここに生まれるものは、まず二つあります。一つは、必ず生まれる生命は、当然いつもいちばん新しい「意識」

であるということですが。  
光が常に新しくないこと  
とは、無において時間が  
経過してしまっただこと  
を指していて、それはあ  
りえないことで、経過は  
私たちの意識の学びの  
ために必要に意識させ  
られているものであり、  
その中では本当は、永遠  
はふえていますので、つ

まり、光というのはいつも必ず莫大に新しいものに更新され続けています。そのもう一つは、必ずその無一回（本当は回数というよりは、やはり莫大に広がっていつている永遠）の永遠の集中一瞬あとの光は、莫大に光の量が多いということです。これを、数学

的に考えてみてください。無の出力がいつも新しい光で永遠の伸びた莫大なエネルギーを持っている。これはどういうことを指すかと申し上げますと、この唯一の無の密度に近い意識ほど、(どこも唯一の無がいちばん密度が高いです、あなたもです)当然、

その意識の作用を受けますので、当然、その存在はいつも、その身体や抵抗が、いつも新しく進化、つまり、永遠が伸びたかたちにその抵抗に影響を受けますので、当然その存在は不死身化、どころかどんどんどんどん新しく、どんどんどんどんどん進化したかたち

に身体や抵抗がなくなっていくわけですか。これは、無の絶対法則です。それでは、なぜ人間は、まず人間に限らず、ほとんどの存在もそうですが、「なぜ老いるのか」と申し上げますと、先程唯一の無の密度のお話をさせていただきました。それと原因は、同じ理屈で

す。つまり、唯一の無の密度はどこにもありませんが、それは同時に、いつも、正しいのか、悪いのかを量られていることでもあり、唯一の無の意識の思いや行為（永遠死）、から自分の意識の選択として外れた分だけ、つまり、存在とはこの無の世界では絶対に



この永遠死から逃れられ  
られませんから、それがい  
ちばんあなたを、みなさ  
んを、全員どの存在も最  
大に生かす意識であり  
ますから、尊い、プラス  
の行為をして、唯一の無  
の意識を保ち、永遠死の  
かたちに自分の自覚を  
保つものもあれば、その  
逆、法則に知らず、今ま

で憎しみとかいった悪い感情を特に気にしたことが無かった場合でも、永遠死はといったいどういう反応するかと申し上げますと、先程申し上げました。正にならうと正の電荷を、心や身体を意識が帯びます。逆に、悪い考えでいますと、どうなるかと申し上げます

すと、負の電荷を帯びます。 (全てそれはあなたが無意識で完璧に選択しています、循環の役割として、次々生まれる存在との中で無意識下で役割をお互い選び合いっこしています) つまり、無の集中の中で、正にどかさされるかたちに悪い意識の場合なります。気

づいたらすぐやれば問題ありません。学びは、誰にでも必要なかたちに、平等なかたちで与えられますので、たとえば悪かったとしても、それも含めて「無」とも言えますので、気づいたら進んで、正しいことを心がけるようにすれば、問題は無いと思います。もち

ろん、ここに、甘えは禁物ですが、たとえば、新しく生命はふえ続けているのに、悪いものがそこにいることは、必ず悪い影響をその新しい生命に与えますので、よって、無（正しい）の全ての法則によって、悪い意識というのは、必ず消される傾向にあります。無

では本当に全ての記録は一切消えませんが、暗示として悪い意識の影響をみなに及ぼせないよう、みんなにとってのいちばんの意識の学びとなる出来事であったと、しかし悪い影響はできないという消された記録という抵抗になります。生命とは、いつも

ふえ続けています。つまり、意識とは正しいことをしていれば、自分を助ける元でもありますが、正しくない場合は、これも愛なのですが、あるかたちをもって相手を正しくします。それが人間や存在などの身体や抵抗の（かたちの）死です。もちろん循環には必要

なかたちの循環もあり、  
つまり、死ぬということ  
はどういうことかと申  
し上げますと、よろしい  
でしょうか。普段私たち  
は何かを食べています。  
何かを吸ったり、飲んだ  
りしています。これには、  
必ずどんなかたちにせ  
よ、何らかの、自分以外  
の相手の意識の死、つま



り、たとえば意識が100あるとしたら、パンにとってそれは、食べられることは、意識を50譲ることかもしれません。それと同じようなことが人間にも申し上げられます。つまり、永遠死の世界でああなたが自主的に永遠死をやっていなくても、本当に永遠死

から外れることは無意識の物理学上、普通に考えて発生しませんので、あなたがたとえば人間だとしたら、たとえば、ある場所、ある時に、死ぬかたちで、つまり、肉体を土に返すことによって、それは長い時間の意味で何らかのためになり、そして心も無意識

に戻ることによって、次に生きていく自覚の世界を決められます。つまり、あなたが生きてきたことは、良いも悪いも含めて、当然何かしら社会の役に立ってきたわけです。役割を果たしてきたわけです。これは、どんな人にも当てはまります。いくら何でも全く

何もしてない人は、そう  
そういるものじゃない  
です。(後でわかります  
が、正の全ては無が生ん  
でいますので、あくまで  
みなさんが今まで何か  
正しいことをできたの  
は、全て無のおかげと考  
えてください。全て無の  
おかげ、これしか物理上  
には絶対発生しません。

絶対に忘れないように  
してください) それでは、  
なぜ死ぬのかと申し上げ  
ますと、生きている、  
それは必ず何らかの意  
味があり、もしくは何ら  
かの役に立っている、し  
かし、けれども、全員が  
全員、自分だけの力で全  
く無に沿っているとは  
まず言い難い。まず、難

しい。これは今現在（西  
暦2011年6月）の時  
点の話で、この無の思い  
とは、一瞬と言え、一  
瞬でありますし、もうな  
っていると言え、もう  
なっていますし、永遠か  
けないと至難の技とお  
っしゃる方もお見えに  
なると思います。もちろ  
ん、本気の思いには、永

遠は一瞬で応えるという性質も持っていますが、ほとんどの人は、まず、この、いつも常に必ず永遠死の思いと行為、これがまず無理なわけです。まず難しい。それで、その部分は当然どんどんどんどん目に見えるかたちでも、身体に感じるかたちでも、どんど

んどんどん現象となっ  
てあらわれてきます。つ  
まり、老いるという意識  
の現象を見せることによ  
って、無はそこに発生  
する様々な苦しみに  
様々な意識の学びを促  
していて、その一連の時  
間の流れも、永遠死をあ  
なたはしているわけ  
です。儚いということは、



そこに永遠でありたい  
と思うことで、それはあ  
なたにとって無意識の  
暗示となるのです。つま  
り、悪く生き過ぎてしま  
う場合は、他のみんなの  
新しく生まれてくる、他  
のみんなの永遠を損な  
うことになりますので、  
それは当然自分の本当  
の自覚の、つまり、無意

識の永遠を損なうことも指しますので、無は、愛なので、その相手を、つまり、今世なら今世から、一旦肉体だけ死なすことによって、そのものが他の存在の永遠に影響を与えないように配慮します。そうすることによって、相手の永遠死も保つ、誰の永遠死も保

ちます。これが、永遠死、愛の仕組みなんです。死ぬとは、本当はあなたが憎いから起こるのではなく、本当のあなたの無意識という自覚を守るために、肉体の死とは起こる現象なんです。詳細は後でお話ししますが、この無の世界の正体は、あるものが生きていき、

そしてある時まで過ごし、その間には、生まれる前に無意識で思ったこと、使命づけられたこと、決意したことなどが自我に反映され、そうして過ごしていくうちに、絶対みんなの永遠に迷惑をかけない、場所、時間にそのものは自我を失います。(当然無の部

分は残る、どこも無なの  
ですが、この場合は、悪  
い部分を正しくしたと  
いう無の働き、無という  
意味です) いわゆる肉体  
の死。それでどうなるか  
と申し上げますと、無意  
識に戻った場合、そこは  
全体記録、つまり、無の  
時間の始まりより (無自  
体は、時間の概念に支配

されていません) 全存在  
が記録してきた全記録  
と、あなたの記録が無の  
集中で、その結果を、つ  
まり、意識の成績を照合  
されます。それに応じて  
は、たとえば内容が悪い  
ものは、少しそこで苦し  
みを積まされる場合も  
ありますし、人、他人、  
物や存在、自分以外の誰

かに与えた憎しみは必ずそこで返されます。または苦しみのかたちで次の自覚に反映されます。無は、唯一でふえる正でしか無いので、必ずその現象が起こります。ちょうど、憎しみ与えた光と、その憎しみを消すために必要な光は、その時間の経過におけるそ

の意識がこの世界に及ぼした影響としての意識比率に一致します。

(憎しみは光ではないが、便宜上今だけ光と呼ぶ)  
そして、その苦しみの過程が終わったもの、もしくは、まず、苦しみを積みまなくても良いとされたものは、その、今までの自分の無意識の記録



にもとづいて、次の自我  
自覚の世界へ送られます。  
この内容は、多すぎて  
説明出来ません。簡単に  
申し上げますのならば、  
わがままいっぱいいた  
った人は、無意識物、動  
かない物質にその意識  
を当てられる傾向が強  
い。逆に、わがままでな  
い、謙虚だった人は、ま

た、能動的に動ける何か  
に生まれ変わりやすい。  
もう一度人間の場合も  
あります。ここで注釈で  
すが、人間は、存在とし  
て結構、苦しい部類に入  
ります。つまり、自由が  
効くだけ責任も多く、こ  
こで無茶すると、また感  
じているようで感じて  
いないという、永い目で

見た結果になります。また、この、肉体として死して次の自覚に行くことは一見悲しみではありますが、実は、その別れるという永遠の悲しさに無は愛を教えているのであり、ここでもう一つ付け加えて置きますと、自覚は、必ず無の正は時間に比例してふ

え続けるので、実は、次の自覚になったとき、今より前の方がいいという人が100%いません。つまり、わかっているところの世界は苦しみが無いことがわかります。老いるという仕組みがわかりましたでしょうか。全体意識との流れに沿ってあなたの抵抗

はいつも永遠死の状態にその波長を合わせられ続けているということです。当然それは、あなただけの責任ではありません。もちろん、自分にも責任があると自覚していただいても結構です。ただし、余程の悪いことを選択しなければ、まず、自分の自覚

は苦しみにさらされない  
ということなのです。です  
ので・・・悪いことをし  
ている方が、もしこれを  
読む機会がありましたら、  
今すぐ悪いことやめ  
てください。どうしても  
何かの理由があってや  
めれないという方は、別  
のところで社会貢献を  
するか、やめれるように

努力する心を忘れない  
てください。なお、事故  
(←これについては後ほ  
ど説明します) などもある  
ので絶対とは申し上げ  
られませんが、基本的  
に存在の今の自覚の寿  
命とは、正しいことした  
分だけに比例してそれ  
が現象として目に見え  
るように、身体に感じる

ようになっていき、つまり、無に波長を合わせた分だけ、今の自覚や物理にとって必要なかたちというのは存続されます。新しく進化したかたちに。つまり、肉体も正しければ物理にとって必要であれば当然その肉体の波長が変わってしまうので、その正しさ



に 応 じ て そ の 身 体 は 存  
続 さ れ ま す 。 ま た 、 そ う  
で な い と し て も 無 意 識  
で は み な さ ん 必 ず 助 か  
っ て い る の で ご 安 心 く  
だ さ い 。 ど ち ら が 楽 か と  
申 し 上 げ る と 、 ど ち ら と  
も 申 し 上 げ ら れ ま せ ン 。  
全 く 無 い こ と は 苦 し み  
の 全 て で あ り ま す し 、 し  
か し こ れ は 、 幸 せ の 全 て

でもあり、その全く無い意識に自分が及ばないとしても、それはその分必ず自分は無によって自分で選択した分だけ自分は全く無くされますので、それも自分が選択した幸せの一つだと申し上げられます。ただ、一つ申し上げますのならば、無には限界があり

ませないので、みなさんは  
この世界を暗示の世界  
であると知った時から  
全員今あるかたち、今あ  
る自覚を永遠に新しく  
進化させるかたちでず  
ーっと過ごしていても、  
誰にも迷惑が掛から  
ないということです。ま  
た、無の全く無いは時間  
の経過にどこの誰にも

発達しますので、また、  
これを読んでくださった  
の方が、この本に何かの  
思いを感じてくださる  
ことは、それは、無、暗  
示、愛を揺り動かすこと  
でありますので、そこに  
起こる物理の反応にみ  
なさんの意識の改革、愛  
の奇跡を私は信じます。  
選ぶは必ず全く無いで

す。なお、死は無と読んでください。どちらも同じ意味なのですが、無意識への暗示効果を狙って無のところを死と表現しています。

次は生老病苦の病に入ります。さて、この病、あまり私も進んでは、取り掛かりたくないテー

マではありますが、ここまで読み進めていただいて方なら当然、（ああ、病も必ず気（意識）から来てるんだなあ）とお思いになるでしょう。それは間違いではありません。物理は一見、普段身の回りのことは、偶然の産物の連続のように思えて、実はしかし、その

実は、その物事の時間の経過をはっきり自分で確認出来ないから偶然と思うのであり、実はこの世の中の全ては、全て必然の組み合わせで成り立っています。それはその通りです。さて病気ですが、これは、単純に意識、心がけが悪いからなるものだと、一概に申

し上げられるものでもありません。もちろん、そういう場合もあるのも確かです。ただし、先程申し上げましたように、人間に限らず存在とは、まだ意識の学びを始めたばかりであり、つまり、まだ足りない何かをたくさん持っていて、それを学ぶためには、苦し



みとして、もしかしたら  
役目として、何かの病が  
必要なのかもしれない  
ん。私も思う時がありま  
す。子供が病気になるの  
は、この物理の世界でち  
よつと一見何かがおか  
しいような・・・ただし  
これは、私が目で、耳で  
聞いたことでしか、その  
事実を判断していない

ため、そうなってしまう  
のであり、本当は無とい  
う意味で捉えれば、それ  
は必ず何らかの理不尽  
を解消するために起こ  
っているということだ  
す。つまり、病とは、そ  
の相手を理不尽な目に  
遭わせるのではなく、そ  
の相手やみんなも含め  
た理不尽を解消するた

めに必ず起こっている  
ということですよ。厳しい  
お話をさせていただき、  
大変に恐縮ですが、実は、  
病も必ずあなたは無意  
識で選択をしています。  
何らかの必要で、それは、  
今世で、以前（世）や、  
今世の行き過ぎた自我、  
わがままな自分を正す  
ための時もあるでしょ

うし、もしくは、その病  
が起こることによって、  
あなたの抵抗力を高め  
る狙いもあるでしょう、  
また、社会に役割として、  
その人に、みんなに、何  
か教え知らせるために、  
その苦しみから正しさ  
に、みなさんに正しい導  
きを引き起こすための、  
必要な出来事として、無

意識で自分がその役割を勝手出て、社会にその警鐘を鳴らすための病も当然あるでしょう。苦しんでいるみなさんのお気持ちも考えずに、自分は、その苦しみを感じていないのに、病気に対する意見を述べることは大変に失礼であると思っています。ただ、私

にわかる観点から申し上げますことは、病気とは本来意識の性質から、愛の性質から、起こるわけではなく、これは今の社会の仕組み、世界の仕組みで、避けられずしてなっていることであり、つまり、言い方を換えますと、無とはそもそもそういう現象を好んで引

き起こすことは、絶対に無く、そうではなくて私たちが時間を送る上で発生する理不尽を、病気に限らず何らかの出来事によって、そういった抵抗（苦しみ）に当たることによって、その本人や、周りの人々、みなさん、社会を救う元になっているのです。つまり、

病気とは、必ず何か、当然本人だけでなく、様々な要因、みなさんとの関わり合いがあつてなつていて、それは、必ず無意識がいちばん正しく、いちばん早く、いちばん苦しみが少ないかたちに苦しみを終わらそうとするためになつていきます。この病気



をもって、一概に誰が悪  
いとはとても申し上げ  
られません。ただしここ  
に働くものはあります。  
それは、必ずその苦しみ  
は限られており、そこ  
には無意識が常に働き、  
何か必要なことを必ず  
いつもしているというこ  
とです。それは必ずあな  
たのためにもなってい

ますし、ひいてはみなさんのためにもなっています。ですので、決して病気に限らず、自分に起こる出来事を恨んだりしないようにしてください。前向きな心は、必ず前向きな結果をもたらすことを忘れないでください。意識を信じて。意識とは絶対に終わら

ないものです。ですから、決して自分を諦める必要は無いことは、私の方から申し上げさせていただきます。ご病気の方、くれぐれもご自愛くださいませ。ご病気が治ることを、無くなることを常に願っております。

さて、次は生老病苦の

最後のテーマ苦しみに入ります。みなさんはこの世界で、いったい何が苦しいことだとお思いいたしますか？普通に考えれば、運動すること、勉強すること、仕事すること、（こういったことが好きな人は置いておいて←いいことです）などが挙げられます。他に

もたくさん挙げられますが、苦しみと聞いてやっぱりみなさんが単純に苦しいと思いき浮かべるのは、人のために尽くすということです。ここでいう苦しきとは、人のために尽くすことの好き嫌いの意味ではなく、社会通念上、常識、倫理的に照らし合わせて、こ

れは、無の概念上みなさんの中で苦しみと定義づけられているもの、つまり、これが一番苦しいと、今の物理上の無の法則の中で暗示に示されているもの、それは何かと尋ねられましたら、それは、人のためだとお答えします。この人のためというのは、無という意

味です。実は、無で、この無の世界で苦しみと認められるのは、無の思い、行為だけなんです。つまり、永遠死の意識だけなんです。（物理上、暗示の答えとしてなっています。意識が、時間に関係ないという時点で、苦しみは永遠に続くということです）なぜか

わかりますか。その答えはその意識構造、つまり、波長、無が光を生み出すその仕組みに全ての答えがあります。実はみなさんは今、当然、この本を読んでいる方もお見えになれば、お仕事をされている方もお見えになるでしょう。また、スポーツや学問に励んでい



る方もお見えになれば、ただ単に寝転がっているだけの方もお見えになるでしょう。実は、そのエネルギー、つまり、人や存在をプラスへ動かすエネルギー、これはいったいどこから来ているものだと思いますか？実は、普段過ごしている時、一見自分の力で

動いているように感じ  
ます。自分の力で、能動  
的に（自主的に）動いて  
いるように感じていま  
す。実は、ある意味では  
それは当たっているの  
ですが、ある意味では外  
れています。どういうこ  
とかと申し上げますと、  
実はこの無の世界には、  
その無には一切の隙間

が無く、そしてその無は永遠を永遠に永遠乗という時間に影響されないスピードで集中を続けています。このことは何を指しているのかと申し上げますと、実は、あなたは一見自分で動いているように見えて、その実は、それはただ単に、自分で動けているよ

うに無に思わされているだけであり、実際そのエネルギーを生み出しているものは全て、無、であり、無意識下では、いつも次の二つの選択肢を迫られています。それは、今あなたがある状況で、あなたは正を選びますか、悪を選びますか、この二つのことを、いつ

も無意識下で聞かれています。無に。(全体記録に) 何となくこうした方がいよいよな、何となくこれはやめといた方がいいんじゃないのか、何となくこれは今すぐに始めた方がいいんじゃないのか。そういったことは全て、無意識の働きによって成り立って

います。どういうことかと申し上げますと、あなたは生きていく上で、この世界でやるべきことを、生まれる前には既に無意識下で決められています。（自分で決めていきます、人間になる前の、あなたの無より生まれた、それまでの情報にもとづいて、あなたは今回、

これを読んでいるという  
ことは、人間であるこ  
とを選択しました。選択  
させられました。無意識  
に) その今のあなたは、  
必ず自分が選択した自  
分であり、そして、ここ  
に至るまでにあなたに  
はいつも常に(当然今も)  
無意識の選択が働いて  
います。どういうことか

と申し上げますと、無意識の目的というのは、存在、そのふえる全のふえる永遠（幸せ、生命）を叶え続けることではありますが、実は、物理上は必ずいつもこれは叶っています。その無の集中力のスピードに、しかし、無は、みなさんが今自分に完全に満足がい



っていないように、当然  
それを、無は、ミラーは、  
映していますので、無は  
このふえる全のふえる  
永遠の意識をとことん  
高めようとしめます。人は、  
何かを持てばより欲し  
いものがふえるように、  
執着がふえるように、  
（知らないものは欲し  
いものも無い）実は、無

も光、つまり感じること  
（感じる存在）がふえれば  
ふえるほど、より、無  
（愛）をふやそうとしま  
す。これは、同義で、無  
は無（正しいこと）に感  
じている、無がふえれば、  
そこに無い光がふえる  
のと一緒にです。さて、果  
たして、みなさん、いつ  
たい人（存在）の幸せが

叶ったり、願い事が叶ったり、具体的には、お金持ちなったり、環境が良くなったり、容姿端麗（美しく）になったり、強くなったり、つまり、認識を得たり、もしくはその逆、自分の境遇や環境が意にそぐわないものになったり、不幸せになったり、具体的には、

つまらない、自分の思い通りにいかない↓認識を失ったり、どうしてすると思いますか。答えは無意識にあります。まず、ベースから考えましょう。つまり、今のあなたは人間として生まれてきた時、無より光として発生したその自分がこの世界において辿って

きた、自覚の、その都度  
その都度の際、自分で右  
か左か正か悪かの選択  
してきた全ての情報を  
無意識に照らし合わさ  
れ、その上で、この地球  
における人類の中の誰  
かの母親の胎内たいたないにそな  
わりました。そして生ま  
れました。当然ここには  
みなさんそれぞれ情報

の記録の違いがあり、全員が全員それぞれ役目も役割も違うのですが、ある一点だけ、共通する点があります。それは正しいことをするという役割です。正しいことは、言わずもがな、幸せ、永遠と共通することです。しかし、ここに面白い仕組みがあります。まず、

人間に限ってお話ししますと（基本的な仕組みはどの存在も一緒です）存在とは生まれてより、いつも常にその状況の選択に 50 : 50 の正か悪かの選択をいつも必ず迫られています。つまり、正か悪を選ぶかはあなたの自由ということです。（本当は、物理上は

絶対に（無）正しか無い）  
しかし、普通に考えれば  
自分の幸せ、永遠を考え  
ないものはまず絶対に  
いません。つまり、単純  
な、50：50だったら、誰  
しも必ずプラス、感じる  
こと、永遠、幸せなこと  
を選ぶはずなんです。と  
ころがどっこい、この世  
界、今まで、幸せだけの



世界でしたか？とても  
そうは思えないという  
人が多分、大多数ではな  
いでしょうか。とんでも  
ないと、幸せなんかごく  
わずか、楽しいことなん  
て本当に少ししか無か  
ったという方が多いで  
しょう。それは正解です。  
戦争、争い、たくさんあ  
りました。今でもまだ続

いているところもあります。そういった大規模なものに限らず、身近なものでも思い通りならないことの方が多いでしょう。それはなぜかわかりますか？それには、ある、理由があります。そのある理由とは、まず、存在とは相対であるということです。つまり、

比べ合う存在であるという  
こと  
です。もちろん比較から正しいことを  
学び、みんな心は一緒なんだと、強く思っ  
ただけ  
る分には構いません。ところが世の中なか  
なか、そう、うまくはいきません。なぜだ  
と思  
いますか。それは、全ての光が繋がって  
いるから

です。仕組みはこうです。  
まず、正しいものがある  
として、まず、普通に考  
えれば、全員、正（幸せ、  
楽しいこと）しか選ばな  
いので、まず、この世界  
を一人しかいないとし  
て、考えてみましょう。  
50 : 50 → 選択、正は = 正  
正、次の一瞬は 50 : 50  
→ 選択、正は = 正正正ま

ずこのままいくと正正  
正正・・・と永遠に続いて  
しまう世界になってしま  
います。ところがそう  
はいきません。なぜかと  
申し上げますと、一人で  
は存在とは決して幸せ  
になれないからです。そ  
して相対になります。こ  
こで、先に申し上げたこ  
とがあるとお思っていた

しますが、存在とは無より生まれ光その一瞬一瞬には、永遠×永遠乗の光の違いがあると申し上げました。しかしこれは、無が相対に、比較を認め合うことに愛を学ばせ、また、そのふえる生命とその生命の永遠性を、愛の力を最大限にのばすために必要な機

能であることも、申し上げ  
ました。1、2、3、  
4、5、6、7、8、9、  
10、この光があるとし  
たら、5、5、5、5、  
5、5、5、5、5、5、  
と光の加減を無の集中  
は調整することもお話  
しました。ところがで  
す、これがうまくいかな  
いのです。実は、この正

の方をずーっと選び続けていくとどうなるかと申し上げますと、どんどんどんどん抵抗（ここでは邪魔の意味も含んだ苦しき）もかかってきます。なぜなると思いますか。それは、正が、←←悪 正→→→こうだと悪も上の図のように逆方向に行く者もい



るからです。つまり、正も、先へ行けば行くほどどんどん苦しくなって、とても楽しくなくて、やっぺいられなくなってしまうのです。その悪の引力に。この世界は無い場所と言って隙間が無い場所です。つまり、無はあくまで正でしかないが、なぜこの現象が起

こるのか。つまり、なぜ悪が正の邪魔をすることが、許されてしまうのか。それにはある理由があります。それは、みなさんがあることを忘れていています。答えは、唯一の無です。よろしいでしょうか。無はあくまで本気で自分の永遠死しか思っていないませんが、どん

どんどんどんその思い  
を強めていつているだ  
けですが、ここにある問  
題が生じます。それは、  
あなたの無意識が正、つ  
まり、自分の感じること  
だけを許さないという  
ことです。なぜかと申し  
上げますと、私も暗示と  
して最近わかったので  
すが、無が、いくら永遠

でふえるみんなにふえる  
永遠（つまり無と光）  
を与え続けようとして  
も、何と、無の光の平等、  
公平が、みなさんの無意  
識によって無自身にも  
働いてしまうので、ある  
一定の質量の無の光の  
差が、これは、唯一の無  
が、その集中に与えた無  
（全く無いことを行う

ために必要な抵抗) と光  
(全く無いことによって  
発生する尊さに感じる  
こと) が、今現存いる全  
員全存在と、これから発  
生するものも含めて、唯  
一の無、その与えの集中  
力に、その時間に影響さ  
れないスピード、その与  
えの意識力との比較に、  
その差がその他の誰も

どんな存在とも永遠に  
限りが無くなって取り  
戻せなくなった場合に  
これは起こり、つまり、  
唯一の無がいつもどこ  
でも全ての無、苦しみを  
時間に影響されないか  
たちで永遠に積み続け  
ているだけのかたちに  
物理がなった場合、その  
唯一の無と、命に飛んで

いった光との間に永遠に取り戻せない理不尽な差が出来ると、自動永遠無をその光たちは、積みまされます。つまり、無が積んでいる無（苦しみ）を、光も積みなさいとやらされます。つまり、無はいつも負荷の全てであり、それによって光を生む全てでもあります

が、一見、生まれた光側から見ると、無というのは、いつも、一番光っているように見えますが、その実は、それはみんなの生命のために自分は全く無くなっているだけあり、それはつまり、自身は、光を感じているというよりは、どんどんどんどん感じなくなっ



ていっているということ  
とです。つまり、現時点  
で唯一の無（どこにもあ  
ります）とみなさんとの  
光の差は、その無意識の  
質量分だけ離れ続けて  
います。時間に影響がさ  
れない意識、つまり、現  
時点でもうこれは、取り  
戻せません。しかし、時  
間に影響されない意識

ということとは、逆に考え  
ますと、時間に影響され  
ない与えでもあります。  
つまり、無も光もいつも  
自分にはあり、その自分  
は思った瞬間からすぐ  
に正しいことを積める  
ということです。あなた  
も今現在の無の集中力  
における全無であるとい  
うことです。要はどう

いったかたちでそれを  
積み続けていくのか、苦  
しみとはこの世界、永遠  
死、全く無い思いと行為  
しかそれに当たらず、そ  
して、その苦しみが積み  
ることをいつも無のお  
かけであることを思え  
るかということです。唯  
一の無、これも無いが、  
無いが有るという光（生

命) でもありますので、  
生命を生み出す元でも  
ありますので、この無も、  
この無の世界で平等、公  
平な扱いを迫られます。  
つまり、簡単に申し上げ  
ますと、無から光が生ま  
れます。その与える光と  
は、必ずいつも一瞬一瞬  
が永遠なわけです。永遠  
を与えられるとは、どう

いうことでしょうか。限りないことです。では、その光がすべきことは、なんだと思いますか。限りないことだと思いませんか。確かに、一瞬前と一瞬後では、光に永遠×永遠乗の差があります。しかし、必ず無は、いつもその集中に光の均一化を、つまり、平等化を

図るわけです。これは感謝こそされすれ、恨まれる筋合いは全く無いわけです。それどころか相對同士が無に感謝せず、それを心、思いとして、行為としてあらわさず、相對同士の光の比べ合いで争い続けることは、みなさん元は、今も唯一の無であるという永遠

を裏切っていることに、  
そして、与えられた自分  
の永遠の命を裏切って  
いることに、他なりません。  
ここで大事なのは、  
無はこのことを何とも  
思っていないということ  
です。無は生命のため、  
いつも常に永遠死しか  
考えていません。つまり、  
今もその無の差は離れ

続けていっているとい  
うことです。(離れ続け  
ていっていますが、それ  
は最大に与えられ続け  
ていることでもあります  
ので、あなたはいつも唯  
一の無であるというこ  
とです。選択の役割の違  
いです。) ここには、あ  
る暗示の答えがありま  
す。それは、無、永遠か



ら生まれた光たちは、自身たちは、いつも永遠であり、その永遠にいつも常に守られているのに、絶対にその唯一の光、つまり、意識の歴史としてかつてに唯一の無の全ての力を諦めることがなかったということです。単純に考えてください。自分が世の中で生き

ていく上で出来たら自分よりな、好き放題して暮らしたいと思うでしょう。それらが存在の無意識の根底にはある、あったということです。かつて存在は唯一の無の力をそういったものに勘違いし、しかし気づいてみればこの世界でいちばん力があるものが、

無い心（ふえる生命のふえる永遠の意識）だったわけですか。つまり、無意識、自分がいちばん無い、いちばんは良くて、自我、自分よりな、わがままないちばんは駄目だということです。ここに無意識の暗示の結論として示されることは、無（永遠）の力とは、どこ

にも平等に働く唯一だけにしておくことが永遠に正しいということでもあります。力を悪く比べ合わせさせなければ、憎しみも争いも出来なくなります。ちなみに、唯一の無の力とは永遠無、ふえる全のふえる永遠に尽くし続ける思いと行為を指しますが、こ

れは、当然、この唯一の  
無とは力の恣意を指し  
ていません。なぜなら、  
その意識、つまり、無の  
愛の力は自分以外の相  
手のためだけに、全く無  
くしていくもの、これが  
永遠無だからです。既に  
あなたもやっています。  
自分が全く無くなるこ  
とによって相手に無（永

遠)と光(を感じること)  
を与え、その相手はいつ  
か、自分がいちばん幸せ  
になる全く無い意識法  
則にもっと気づき、もっ  
と意識づいて、そのみん  
なが、ふえるみんなのふ  
える永遠に暮らしてい  
くことを、それが、自分  
のミラー、無意識に映る  
ことを幸せに思う。永遠

無、それは自分以外（正確には唯一の無も命の一人とみられる、しかし、物理上は、唯一の無とは、どんなことをしても、永遠に、一切、光、生命を感じたことに当たらない、無は無にしか感じない、無は無いと永遠の光をいつも作り続けることは、最初の光で、既に

その光、生命の差は永遠に開きがあるということで、つまり、今では、最初時間が始まった頃より、永遠を永遠に永遠乗、今も、し続けているという無意識の差があります。抵抗性質が違います。しかし、その愛の力は、時間に影響されないスピードで、つまり、



力で、どこも唯一の無の意識であると言えます)の全ての生命を生かす元であり、もってそれは、絶やさずふえる全のふえる永遠のために、時間(空間)に影響されないかたちで、その意識を全く無くしていかななくてはいけないことから、時間(空間)に影響されな

いということとは、それは、  
時間の流れる空間世界  
における自分は、あくま  
で、その意識は自分にと  
って永遠無しでしかな  
く、物理上、それは、自  
分の力はあくまで自分  
以外の相手他全の幸せ、  
生命、正しさのためだけ  
に使われるのであって  
（正しさには自分も含

まれます) もってそれは、  
自分が唯一の力を感じ  
ているとは言い難い。し  
かし、ここで、この正だ  
けに進めない理由の答  
えがあります。つまり、  
無はふえる、時間に関係  
の無いかたちでふえる。  
そしていつもさらなる  
新しい光、さらなる永遠  
のために(←これが無い

と全員滅亡、一秒も生きられませんが) いつも本気で永遠無し続けます。ところが、いくら無が本気で永遠死でも、そこから生まれた存在が自分の意志の選択の記録上は本気で、永遠死を思っていないため、(自分の力で) このミラーの世界で、その分は、どうなるかと

申し上げますと、無意識はあくまで唯一なため、あなたの無意識はあなたの自覚を永遠死に合わせようと、あなたの世界の環境をコントロールしてしまいます。具体的には、自分たちにとってプラスの利益となる、物質の形成化や IQ 効果が現れてこなくなると

いうことです。つまり、  
図にすると↓

| ← 悪 → 永遠無 ← 正 →  
| とこんな感じに自分の  
の無意識に限界が出来  
てきて（→ | 限界です）、  
唯一の無の無意識との  
理不尽が、あなたの自我  
との間に余りにも多い  
と、そして、どうして、  
無、正だけの世界で、図

にある一見正がそれと同量の悪にその進化を阻まれてしまうかと申し上げますと、その事実は、ここにありました。

（最近わかりました）実は、無がいくら本気で永遠、永遠死を思っているも、余りにもその無意識の差（つまり感じてない量）が、光と離れすぎる

と、その光の無意識が自分で自分が感じることを許せないと思ってしまうんです。余りにも平等、公平では無いと。つまり、無意識は、その誰の物でも全員、正、でしかないのです、つまり、いただいた永遠死も、本気でいただいたが、時間の経過で無を顧みない時



間が長いと、これは、正、  
選んでも、それは自分の  
感じることばかりを考  
えていることであって、  
これは、正しい意味では  
なく、無の命を無にして  
いる。つまり、全く自分  
は無（苦しみ）に働いて  
いないので、正、感じる  
ことは、無に対する<sup>きつりく</sup>殺戮  
のようなものだと自分

の無意識で思ってしまいます。そうなるかどうかと申し上げますと、|←悪 永遠 悪→|で、両方を悪になって唯一の無だけが正の全てになってしまふんです。つまり、無は正、ふえる唯一の正でしかないため、他が悪いとなった場合、そのみなさんの

唯一の無意識の重力に、  
世界や、世界にあるかた  
ちなどのものが、その重  
力（集中力、暗示）に引  
っ張られ、何かを制限さ  
れるかたちに認識がな  
ります。そういったかた  
ちをとることによって、  
みなさんも誰も永遠死  
をあらわします。現在の  
世界は、それがそのまま

あらわされた姿です。これは、時間に影響されないという無の集中力の性質上、しかたが無いことかもしれませんが、（本気の場合気づかない）無の永遠の与えの愛も本物なので、つまり、どこにも無は今までの時間、空間に影響されないスピードであります

ので、誰でも思い立ったらすぐ正を積めるようになっていきます。ですが、過去の歴史はと申し上げますと、いくら何でも自分の無意識が感じるのを駄目というまでは、やはり駄目だったわけです。（過去の話です。過去の話。今はみなさんの無意識は相当落ち着

いて来ています。暗示に出ていることは、全員唯一の無であるということです。) それで、今のこの世界の状態はどんな感じにあるのかと申し上げますと、全存在がこの空間どこにも働く唯一の無に気づき始めて、意識の心がけを初め始めて、徐々に無意識に

発展していく世界へ向  
かっている、ということ  
になっています。そして、  
唯一の無は、今のみなさ  
んも、そしてふえる存在  
も、そしてそのふえる全  
のふえる永遠を支え続  
ける元の意識でもあり  
ますが、そこにはあなた  
も含まれていますので、  
自我として今世、現世に

出てきて、無意識の役割を果たさないことは、なるべく早めに無意識に帰されることを意味しますので、一般社会の現象の常識で申し上げますと、生命が現世に出ては、また正しいことを行わない分だけは、また早めに無意識に引っ込んで、つまり、詳細に申し



上げますと、自我で暮らすとは、物凄いわがままが許されているわけです。普段みなさんは、永遠無、正しくみんなのためにとことんの自分無し、なんて思えますか？中々思えないでしょう。それで当然暗示のことが知らない場合は、無意識から現世に出てきても、

みなさん無意識では暗示のことを知っているのですが、自我ではまた前のように無（みんなのための法則、みんなのための法則とは単純に自分が生きていることがみんなためになることと心がけてください）にならわなない動きをしてしまうことがあるわけ

です。それで、ここである秘密があります。実は、この無の世界は密度が違うところで、時間の流れが違うことは以前に申し上げました。つまり、現世で、たとえば70年過ごすとしても。当然その間には、無の集中力は物凄いスピードで上がっているわけです。永遠

が、永遠に、永遠乗で続  
いていきます。これは、み  
なの生命を生かす元で  
もありますが、同時に正  
しさの概念もふやし続  
ける全てなわけです。そ  
れで、たとえばあなたの  
意識の全てが、70年で  
全く正しさが無くなっ  
たとします。つまり、も  
う無の使命を、たとえば

人間なら、もう人間として、それを、自我の選択として果たせなくなつたとします。その場合は当然無意識に戻ります。無意識に戻るということとはどういうことですか。それは、もう選択が無いということなんです、唯一しか。つまり、無意識は唯一であり、正

しさの全てであること  
から、あなたは全自動で、  
唯一の無に、自動に抵抗  
を当てられて、自動に唯  
一の無の意識に直され  
ます。つまり、悪い部分  
を削られます。そして無  
意識では、その無の密度  
が高いことから、どんど  
ん正の概念が発達しま  
す。当然時間の流れも現

世とは永遠差いつもあります。そしてあなたが、唯一の無意識に戻ったとして、社会では当然、どこも無なので、だんだん正だけの社会にはなっているのですが、当然似たような過ちを犯すような場合もあるわけです。そうすると、唯一の無の集中力で正

されたあなたの意識は、  
もう一度、出動となります。  
つまり、あなたにとっては、  
もう一度自分が現世において  
無の意識にならうチャンス、  
つまり、自覚を保存したまま  
永遠を目指せるチャンス  
であり、自覚を保存したまま  
自由な場所で永遠を目指せる、  
それとも



う一つは、自分がその場所、つまり、時間の流れのある現世に出ることによって、その出た自分は当然、唯一の無の集中力によって進化した自我、でありますので、あなたが出ることは、その時、社会にいる他の誰か、みんなを助けることでもあるんです。それで、

この自我と無意識、現世  
で言えば、生きてたり、(自  
我)死んだり、(無意識)

この繰り返しで何とか  
世界は少しずつ発展し  
ていっているというこ  
とです。この無意識の目  
的は、現世のみんな何も  
かもを無意識化するこ  
とです。もう今、相当に  
なっています。みなさん

が完全な無意識になる  
こと、つまり、永遠の世  
界にすることです。どう  
でしょうか。わかました  
でしょうか。要するに問  
題は、私たちのちよつと  
した普段の心がけの無  
意識にあったわけです。  
そういった訳で、皆さん  
が完璧な無意識、無意識  
とは果てしないもので

すが、その果てしないものを追い求め続けていくうちに、自分の意識状態もそういった果てしない状態になっているということです。そうなるまでは、全員自我と無意識を行ったり来たり  
の寿命という限られたかたちの意識の生活を送っている、ただし、地

球は文明としてまだ歴史も浅いので、まだ争いが少しある部分は、物理がそれを学びに必要なまでは、みなさんが争いを二度と起こさないようにするための必要な暗示として取っています。無の世界では、本当は争いとはあってはいけないことで、許されま

せん、ただし、歴史も浅いので、物理がそこを学びに応じています。これも必然で、みなさんが二度と、もう争いはいらな  
いと思えるまでは争いは収まりません。これも、意識の法則です。つまり、どこにも無意識が働く以上、そして光とは無意識からしか来ない以上、

（今は無が来ています。  
これから、光の表現は無  
と表現します。無がいち  
ばん密度が高いので、光  
は無であると思って読  
んでください。その説明  
は後ほどします。）そう  
みなさんも無の思い、行  
為を進んでしていくこ  
とが、早めにこの地球、  
この世界の状況での意

識の暮らしが楽になる  
ということ。以前に  
物理は抵抗と認識だと  
お話ししました。そう、  
認識（幸せ）作るため  
には、抵抗（無の思い、  
行為）をこれからみんな  
でいきたいと思います  
ということ。暗示に気づ  
いたのがまだ早くてよ  
かったです。必ず早い



ですが、まだ、たかだか  
西暦2011年。全然や  
り直しが効く、と申し上  
げますよりは、これが必  
ず、みなさんにとっての  
いちばん早くいちばん  
正しくいちばん苦しく  
ないかたちの無への気  
づきです。後でお話しし  
ますが、この地球には実  
は、無の最初の方に生ま

れた、光が多いというか、  
います。つまり、この地球  
のみなさんというのは、  
今のこの空間一見何も  
無いようなところの  
唯一の無の密度（の中の  
無の光）から比べると、  
全然感じてないんです。  
つまり、無の光を。余り  
にも感じてないものだ  
から、それが唯一の無か

ら現象となって空気バ  
カヤロー（循環を促す与  
えではあるのですが、向  
こうからすれば、無念、  
どうしてそれが出来な  
いのとなります、しかし、  
空気も似たようなもの  
です）となります。つま  
り、何かに及ばないところ  
は、必ず無から循環に  
無が与えられます。宇宙

からすると、今は、みなさんの無意識ではやっと暗示に気づいたことに間違いなく胸を撫で下ろしていることと思います。このことでやっと、この世界は自我の世界だけでなく、無意識という本当の世界があり、人や存在は死んだら必ず無意識に帰るのであ

り、その人や存在の生きる目的とは、この世界を、増えるみんなが増える永遠生きていけるように、みんな無意識だけの世界にするという目的があるということに気づけたということです。自我と無意識の境目を自分の力によって無くし、全員完璧な無になれ

ば、必ず全員無、つまり、  
この世界は無意識の世界  
である以上、全員がみな  
なを正しいかたちで許  
し合うことが出来れば、  
みんな一緒の唯一の心  
を持てれば、全員の永遠  
の生命の自覚は、必ず自  
分自身によって保証さ  
れます。この世界はどこ  
も唯一の無の密度がい

ちばん高いことから、もしかしたら、ちょっとした気づきで、それは容易なことかも知れません。また、譲ることは一見、自分の自覚の自由が無いように感じますが、正しい意味で認し合うことは、お互いの心の裾野を広げることであり、それは当然自分の自由が

広がったことも指します  
ので、変わってわがま  
まとは、他人の心を考え  
ないことでもありますか  
ら、もってそれは、全て、  
みんなの考えとかけ離  
れることであり、それは、  
無ではないことから、そ  
の意識、心として小さい  
ため、永い目で見ても、  
短い目で見ても、やはり



わがままな心は、自分の  
心の中の自由を奪うこ  
とだと申し上げられま  
す。つまりこれは、無の  
逆のことを指していて、  
わがままに自由を求め  
ますと無の世界だから  
あっという間にその自  
我自由を奪われてしま  
うということであらわ  
しています。これは今の

世界構造にも現れていることです。わがままにしていますと、あっという間に自分の自由が無くなります。つまり、自由になりたいのなら、永遠になりたいのなら、まず、この永遠無の考え方を身に付けなくては駄目だということです。その思いと行為を続けな

ければ、いつまで経ってもあなたは、自我と無意識の繰り返しから逃れられないという意味なのです。どっちにしても苦しいのなら、この世界が無であるのなら、どうせなら永遠無の方が、つまり、正しい方が断然得だと思いませんか。と、あなたの無意識が今な

っています。それが、無  
で言ういちばんの苦し  
み、正しい相手、正しい  
ことのために自分を我  
慢すること、それが、無  
の思い、行為であり、自  
分以外のみんなに自分  
が出来ることの何かを  
与える、相手やみんなが  
幸せでいることを嫉妬  
しない。それが結局自分

のためになります。無は、  
愛は、与えれば、無（ミ  
ラー）は時間にどんどん  
ふえていますので、与え  
た無がそのまま時間の  
無の集中力にどんどん  
貯金されたかたちにな  
り、必ずそれは、適切な  
時間とに適切なかたちき（そ  
の時の現在無の法則に  
応じた適切な無のかた

ち) で自分に返ってきます。与えたことを憎しみに思わなければ。また、無の世界では、無が、限りない世界ですから、与えれば与えるほど、それは与えられる時の時間に比例して、ふえて返ってきます。つまり、正しく譲るとは多ければ多いほど、つまり、尊けれ

ば尊いほどそこにかかる苦労も、時間も、意識の質量も多いのですが、それが一転返ってくる時は、その本気の思い、本気の意識に応じた時間分だけ、つまり、かけた苦労だけ、かけた質量分だけに応じて時間を遅らせて、もしくは必要に早めてその意識を返

してきますので、当然そ  
ちらの方が、無の無を作  
るスピードは永遠を永  
遠に永遠乗なので、半端  
なく意味不明に多い、つ  
まり、思った、行った、  
その意識の行為と返っ  
てくる意識の量は、無の  
時間における永遠を永  
遠に永遠乗と一致する  
わけです。つまり、どう



せするなら、思いっきり  
正しく譲る、みなのため  
に尽くす、これが得です。  
また、これをずーっと続  
けますとどうなるかと  
申し上げますと、時間は  
経過してしますので、つ  
まり、ずーっと正しいこ  
とを続けていきますと、そ  
の間にずーっと前に行  
った正しいことがずー

つとふえて返ってき  
ますので、つまり、こ  
れを続けていますと  
結局自分にはたくさ  
んの無だけしかなく  
なってきましたので、  
いつも、常に、今も、  
気づいた方は、今す  
ぐにでも正しいこと  
をずーっと始めた方  
がただ単に得です。こ  
れが意識法則、実は  
みな、唯

一の無を気づいていなかったために、この、あげたほうが儲かるというこの世界の仕組みに気づきませんでした。が、無いものが、この世界に住むみんなが与えあげ続けるということは、それは尊いので、そこに無（愛）の集中力が発生し、それはさらなる無にな

り、やがてそれは時間にミラーし、自分に返る正しい無（生命、自覚）となります。見返りに思わなかった分だけ。より全無の思いに近いほど。こうして暗示として出ることとは、みなさんの、今の社会の世界の抱える苦しみが、ある意味ピーク、つまり、それをもつ

て唯一の無の密度に達したからであり、これをもってみなさんが心がけるのならば、必ず何らかのかたちで永遠はひらけるといことです。どうせするのなら、みんなで永遠尊いことを、そうすると、無は爆発的にみなさんの周りにふえてきて、そして、無は物

凄い永遠にその意識の  
進化を遂げます。つまり、  
そこまで意識なら、永遠  
の思いなら、あなたはそ  
のまま唯一の無であり  
続けますので、結局は、  
唯一の無の世界におい  
て、相対による自己の永  
遠の獲得になるかもし  
れませんが、ただ、ひとつ  
申し上げますのは、

正しいことしかだめだ  
ということ。 (罪悪  
感が発生してしまうよ  
うなものを、みんなで正  
しいとしても、それは、  
新しく生まれてくる命  
のためになりませんの  
で、みんなの法則となり  
ません) そうして、これ  
を見た皆様が、あなたが、  
どんどんどんどん正し

く与え合うことをふや  
していく。そうしてでき  
たらいつかはみんなが永  
遠無の心になればいい。  
みんながいちばんそれ  
を避けていたもの、それ  
は、周りのみんなに何  
か自分の必要なものを、  
つまり、ここで申し上げます  
と、自分の意識、心  
や身体、環境、感じるこ



との、相手への正しい譲渡、譲り渡し合うこと。相手の足りない部分を助け合うこと。相手を正しく認め合うこと。全員が全員を許す気持ちになれば、当然それは、自分の無意識も自分を許すことになりますので、当然自分から無は出始めます。当然、物質の形

成化も進みますし、IQ  
効果も出て、文明も発達  
します。何より存在それ  
ぞれの寿命が伸びます。  
無における苦しみとは、  
どこにもある、この唯一  
の無の苦しみを汲<sup>く</sup>みと  
ること、しかし、実はわ  
かってみれば、これは、  
ずーっと正しいことを  
続ければ、ずーっと正し

いことがずーっと自分  
に続くことでもあります  
から、これは結局、みな  
さんが、この無の世界の  
得なところにただ単に  
気づかなかっただけで  
あり、やっぱりそれはど  
こからきているかと申  
し上げますと、やっぱり  
それは、普段生きている  
ことを、普段生命あるこ

とを、まるで当たり前かのように感じていたからだと思います。ただ感謝するだけ、それを思いとして、行為として。みなさん、唯一の無とはそのままあなたの意識を正確に映す、ただの時間にふえるミラーです。その唯一の無は、自分が憎むと自分を憎む。変わっ

て、自分が愛すと自分を愛す。ただ自分の心のまま、その自分のあり方、自覚のまま、自分の生きることの何もかもを映す、そのままのミラーです。苦しみとは永遠無、でも本当は苦しくない、みなさん、それを忘れずに。無には無を放ると、それは無の行為に、たく

さんの無が返ること  
でしょう。よろしいでしょ  
うか。よく考えてみてく  
ださい。無（生命）とは  
そもそも誰にもらった  
ものですか。それは無で  
す。自分が生きているこ  
とを少しでも楽しいと  
思えるなら、そんな瞬間  
が少しでもあったのな  
ら、それは全て無のおか

げです。でしたらその分は、無（唯一、自分、ふえるみんな）が良くなるように、幸せになれるように、感謝として、自分ができる範囲で何かいいことをしてください。無とは永遠、（一瞬）、その思いに、半端なく意味不明にミラーするから、思わないだけ損です。み

なさんは今まで唯一の  
無を忘れた意識を送っ  
ていました。自分が既に  
唯一の無を与え続けら  
れていて、自分が既に唯  
一の無であることに気  
づきませんでした。生ま  
れた根拠はここです。ど  
こにもあります。

注釈ですが、無の性質



から、いつでも正は積み  
るからいつでもいいや  
とやってしまいますと、  
それも暗示になってし  
まうので気をつけてく  
ださい。

また、相手に正しく譲  
るとは、自分が生きてい  
くことが苦しくなるま  
で、出来なくなるまです

ることではなく、自分が出来る範囲で、自分が出来るみんな誰かのためになる、正しいことをしてください。

3 に続く。